平成10年度年次晚餐会 皇太子殿下、妃殿下と共にご出席



橋本龍太郎前総理も

部からの出席は百七十六人。

また来

本龍太郎会員ら国内外から六百十五 下と共に出席されたのをはじめ、

人の会員が出席した。全国二十四支

氏、ネパール大使ケダール・バクタ 賓として秩父宮家ゆかりの松平恒忠

マテマ氏らが参列された。

斎藤会長が現況報告

れたことはあるが、

晩餐会は初めて

九十周年記念フォーラムに出席さ

会の現況について、大要次のように 冒頭挨拶に立った斎藤惇生会長は 出席者は六百十五人

ホテル国際館パミール三階の「北辰 五日、東京・品川の新高輪プリンス 平成十年度の年次晩餐会が十二月

で開かれた。

この晩餐会には皇太子殿下が妃殿

の結果、『秩父宮記念山岳賞』を創 を怠ることはできないと思う。 を考えると若い年齢層の入会の努力 勢は衰えることがないが、 員は二百三十三人だった。 て検討することをご報告した。 在五千八百四十九人、今年の新入会 こ下賜されたご遺贈金の使途につい 一、日本山岳会の会員は十一月末現 昨年の晩餐会で、秩父宮家より 会の将来 会員の増



1999年(平成11年) 号 (No.644) 日本山岳会 The Japanese Alpine Club 定価一部 150 円

次 目

平成10年度年次晚餐会1
新名誉会員紹介3
第1回秩父宮記念山岳賞決まる…4
表彰に当たって 4
審査の経緯について4
受賞者の言葉 5
報告
図書委・「山を語る」 6
自然保護委・全国集会6
ジャック93会・登山集会7
三水会•現地集会 泣面山 8
96同期会・山行 武奈ヶ岳 8
海外の山・若者にどう対するのか9
支部だより
福島支部 岐阜支部 秋田支部…10
さんけんだより10
わが支部とっておきの一山
山梨支部·黒富士12
石川支部·白山加賀禅定道13
東西南北
原三角測點に説明碑14
田口二郎さんに頼まれたこと…14
2200メートル級の山14
アルバータ峰初登頂の動機15
魅力の南アルプス縦走16
チョゴリザ初登頂四十周年17
「老化は足から来る」は本当か 18
新入会員·図書受入報告 ······19
会務報告20
INFORMATION 22
▶日本山岳会事務取扱時間
月・火・木10~20時
水・金13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1 第3 第5十曜日10~18時

▶図書室開室時間

日曜・祭日・月曜日を除く毎日 ………

源外登山報告

展示は盛りだくさん

した際、中国とブータンとの国境に

一、今年五月、中国登山協会を訪問

代表し若林会員は「富山支部設立の

新永年会員は十五人。永年会員を

発起人として日本山岳会に入会した。



学生部ブ-- タン登山展示の前の皇太子殿下と妃殿下

ズへ行き、ネパール山岳協会に贈呈

目録を手渡してきた。

の賞の権威を将来に向け大きくした

一、皆さんにご協力いただいている

「新日本山岳誌」の編纂を開始

開催、 始された。 皆さんに厚くお礼申し上げたい。ま 創立百周年記念行事の一環として開 を得て『新日本山岳誌』の編纂が、 た岐阜支部を主管とし各支部の協力 った。岡田支部長はじめ秋田支部の 全国支部懇談会は秋田・男鹿半島で 一、各支部の活動も活発だ。今年の 百六十人が参加し、大盛況だ

協会の坂口三郎会長と共にカトマン の要の役を引き受けている日本山岳 達している。十一月二十六日、募金 ず十一月末で約一千二百六十万円に 募金は、大不況のなかにもかかわら ネパール国際山岳博物館の建設支援

ルトレッキングを行った。これには あり、前向きに検討している。また 遣し大きな経験を得た。明年は中国 生部はブータンに七人の登山隊を派 の研究は続けなければならない。学 をいただいているが、自然の試練に しんだ。 まれて素晴らしいトレッキングを楽 百二十四人が参加した。天候にも恵 国際観光年に協賛する形で、ネパー 十一月二十~二十八日にはネパール より日中合同の学生登山の申し出が 耐えていかに安全を確保するか、そ で挑戦、登頂したものの残念ながら ンジュンガへ無酸素・シェルパレス 一人の隊員を失った。貴重なご批判 一、海外登山では、青年部がカンチェ

> あるガンカープンスム峰登山の申 派遣することを検討している。 とができた。できれば来春、 したところ登頂の可能性を見出すこ 出があった。この秋、偵察隊を派遣 本隊を

まっている。 バータ峰登頂七十五周年記念の日本 定した二〇〇〇年に向けてのアル 十日~十一月三日にはカナダ山岳会 が多かった。とくに九月下旬にはワ カナダ合同登山に地元の関心が高 の年次晩餐会に招待された。昨年協 ルテル・ボナッティ氏を迎え東京・ 大阪で講演していただいた。十月三 、今年もまた海外からのお客さま

|新名誉会員・永年会員の紹介

誉のご恩返しをしたい」と挨拶した。 野になんらかの形で貢献し、この栄 相川修 (三九〇〇)、大井正 られた人は四十九人だった。心から して川崎会員は「日本の山登りの分 た。川崎精雄(会員番号三〇四三)、 物故者に黙禱。この一年間に亡くな 斎藤会長から名誉会員章が手渡され ご冥福をお祈り申し上げます。 四八)の三会員。名誉会員を代表 続いて、新名誉会員の紹介があり 斎藤会長の挨拶・現況報告のあと



JACグッズの販売も盛況



平成10年度の新入会員紹介も行われた



新名誉会員に推挙された左から相川、川崎、大井の各会員



秩父宮記念山岳賞の表彰を受ける左から三枝、 薬師両会員

神保信雄(二八三二)

木村桂 (二九一七)

若林啓之助(二八二四)

大山昭一(二七八七)

百瀬孝(二七三五)

新永年会員 挨拶した。 年の月日のありがたさを感じる」と その支部も五十周年を迎えた。五十

西納久之(三三五二) 後藤泰治(三二二六) 渡辺千代蔵(三二〇九) 牧野衛(三一九四) 青山咸恒(三一八九) 広羽清 (三一五七) 川越孝次(二九九九) 保坂一(二九八五) 吉村健児(三一七三) 後藤又兵衛(三一七〇)

鏡開き

鏡開きである。 の実家のご当主。 田審査委員長、 いて、秩父宮記念山岳賞を祝しての 員に表彰状と副賞が手渡された。 た。斎藤会長から三枝会員、薬師会 で行われた。松平氏は秩父宮妃殿下 秩父宮記念山岳賞の受賞式に移っ 松平氏が加わり六人 竹内運営委員長、

線で活躍されている方がいらっしゃ 雄名誉会員が「世界の山登りの第 一連のセレモニーを終え、木下是

> ご活躍を祈念したい」と乾杯の音頭 役を退かれた方がいらしゃる。自分 をとった。 これらすべての方の健康とさらなる る。豊富な経験と思い出を持って現 でいる数多くの方がいらっしゃる。 の生活の一部として山登りを楽しん

人のご厚意によるものだった。 酒「四海王」は故今西壽雄元会長夫 マスターが歓談を盛り上げた。日本 ルに会員が集い歓談した。テーブル

を受けた。 えていきたい」と挨拶、盛大な拍手 日本山岳会で学んだことを後輩に伝 に貢献しているのではないかと思う。 の平均年齢を引き下げるのにおおい が、二十八歳の若さであり、山岳会 広瀬健太会員は「私ごとで恐縮です 新入会員は三十人が出席。代表して 支部と出席支部会員の紹介があった。 キンリー気象観測は来年で終了予定。 ンスム偵察隊の皆さんである。 ッキンリー気象観測隊、ガンカープ 生部ブータン登山隊、また第九次マ 年部カンチェンジュンガ登山隊、 さらに新入会員、また全国二十四 海外登山隊員の紹介があった。 マッ

中央線四方津駅南方にある矢平山 (やていろやま、八六〇メートル) 翌日の晩餐会記念懇親山行はJR

会食が始まった。六十六のテーブ

上をもってお礼申し上げます。 た年次晩餐会実行委員の皆さんに紙 最後に、設営から運営に苦労され (写真·村井葵、文·高橋重之)

新名誉会員をご紹介します

雪期の富士、穂高、 治四十年一月生まれ、九十一歳。 川崎精雄(会員番号三〇四三) 鹿島槍等に登山

■秩父宮記念山岳賞の記念講演会

苦労話を交えながら披露された。 典』『新版ヒマラヤ文献目録』編纂 受賞の対象となった『ネパール語辞 告があった。続いて三枝会員、薬師 と記念講演会が行われた。竹内哲夫 白雲の間で秩父宮記念山岳賞の発表 の動機、完成までのいきさつなど、 会員の記念講演があり、それぞれに 小田稔審査委員長から選考経過の報 運営委員長から受賞者の発表があり、 晩餐会に先立って、午後三時から

ジュンガ登山隊の谷川太郎隊長が脅 品のコーナーも盛況だった。 展示された。JACグッズなど頒布 登山やガンカープンスム偵察報告が 山」のほか、学生部によるブータン 山の模様をスライドを使って報告。 全国支部の「わが支部とっておきの 隣接の慶雲の間では、昨年に続き 午後二時からは青年部カンチェン

など。「北海道の山歩きを認められ のスキー登山』、『回想の日高山脈. 札内岳、カムイエクウチカウシ山、 昭和三~八年、ピリカペタン沢から 多数。「名誉会員にご推薦いただき を見る日』、山の句集『冬木群』他 登など。著書は『雪山・藪山』『山 大井正一(会員番号四一四八) 征紀両先輩に感謝しています」 たのは光栄です。伊藤秀五郎、 作は『一月の日高山脈 札内川上流 ソエマツ岳、神威岳などに登る。 しての節度ある登山を続けます_ 光栄です。今後も日本山岳会会員と 登る。北大山岳部で登山技術を磨き 中学生の大正十二年八月に十勝岳に 治四十二年五月生まれ、八十九歳。 修(会員番号三九〇〇) 無雪期の荒沢岳初 中野 明

回秩父宮記念山岳賞決まる

表彰に当たって

運営委員長 竹内哲夫

において、 平成十年十二月五日の年次晩餐会

一、三枝礼子「ネパール語辞典」の

した。 の二業績が、第一回「秩父宮記念山 岳賞」の受賞業績として表彰されま 二、薬師義美「新版ヒマラヤ文献目 録」の作成とヒマラヤ関係の著 の翻訳書の刊行

め各審査委員、応募の受付、整理、 らざる実感であります。「実施大綱」 に厚く御礼申し上げます。 諸連絡などに当たった事務局の方々 に当たった小田稔審査委員長をはじ の作成に関わった各運営委員、審査 合わせることができたというのが偽 て、何とかぎりぎりのところで間に かなり急ピッチな検討、審査によっ 彰が決定され、以来一年間にわたる 賞の創設と翌年の年次晩餐会での表 平成九年十一月の理事会において、 度重なる討議の中で、各委員の念

象庁に滞在中のチロル登山が印象深

い。著書は『山の気象はどう変わる

自由大学気象研究所及びザクレブ気 実験、昭和三十八、九年のベルリン 三月、富士山頂でラジオゾンデ着氷 岳等登山を行ったが、昭和二十九年 を問わず北ア、南ア、中央ア、谷川 正三年九月生まれ、八十五歳。

> が述べられました。 登り方から文化的業績に至るまで、 とは何かということがあり、山への い業績とは何か、日本山岳会らしい さまざまな観点からさまざまな意見

行うことにしています。 改善すべき点も見受けられ、第二回 審査・選考の各段階において、今後 なかったこととあいまって、募集、 れた関係上、手探りで進まざるを得 に運営委員会を開催し、しっかりし に向けて、印象と記憶の鮮明なうち ハードなタイムスケジュールで行わ たレールが敷けるよう反省と検討を とくに今回は第一回の表彰であり、

ることに役立つ立派な賞として、大 賞でありますので、日本山岳会とし きく育ってゆけますよう、会員各位 のご協力をお願い申し上げます。 て恥ずかしくない、会の評価を高め この賞は今後も永く継続してゆく

審査の経緯について

審査委員長 小田 稔

父宮家よりご遺贈金を頂戴しました。 日本山岳会は、平成八年八月、

なっていますから、

想い出を語るこ

頭には、日本山岳会の賞にふさわし

五十年間の登山は全部スライドに 宮記念学術賞受賞。「三十歳頃から 数。昭和五十八年に第二十七回秩父 か』『山の気象遭難上・下』など多

とになり、運営委員会を設けてその 父宮記念山岳賞」を創設して山にご その有効な使途について検討の結果、 うことから、数次にわたる会合を開 今後の賞の性格に影響を与えるだろ ことになりました。運営委員会と審 年次晩餐会でこれを表彰するという はその推薦を受け理事会に諮って、 そこで受賞にふさわしいと判断され まで)。審査の方法として、運営委 とになりました(平成十年度は八月 して、毎年七月末までに公募するこ 関心の深かった両殿下を記念するこ いて、慎重に事を運びました。 査委員会としては、今年の第一回が た業績を運営委員会に報告し、会長 員会のもとに審査委員会が設けられ 活動と、山岳に関連する文化活動と 実現に当たることとなりました。 一山」に関する各種業績に対する「秩 受賞の対象は会員の参加した登山

営委員会から数名は入っていただく 認を得ました。審査委員会には、 補の名簿を作成、山岳会理事会の承 運営委員会は審査委員会の委員候



経緯を述べる小田審査委員長

員は、それぞれご自身の意見のほか

必要な事項についてはあらかじ

の表明がありました。また各担当委 それぞれ当日までに書面による意見 員のやむを得ぬ欠席がありましたが、

さて、九月二十八日には二人の委

め専門家の意見を聞いて当日の会議

ては学術的側面、 に臨まれました。

自然環境・文化環 審査の物差しとし

こと、日本山岳会の各委員会担当の した。 理事と、受賞候補の推薦者は入れな 十名からなる審査委員会が成立しま いことなどが合意され、九月十一日、

えた貴重な業績と考えられます。

期することも含めて予備日が設けら まらない場合には、第一回受賞を延 しました。九月二十八日までにまと 評価の判断は委員会に委ねることに えられるポイントの説明にとどめて、 薦というよりは、本賞に値すると考 による候補業績紹介は候補案件の推 決めることになりました。担当委員 員の無記名投票によって推薦候補を れについて紹介、報告を受け、全委 九月二十八日に担当委員からそれぞ 委員が指名されました。九月十七日、 員会で、各候補について複数の担当 応募のあった十一件の賞の候補につ 員長に選ばれ、直ちに八月末までに れました。 いて審査が開始されました。この委 第一回の席上、私が互選により委

> 境の面、 などの視点も考え方の基本から論議 ることになりました。 も十月十五日の運営委員会に推薦す 委員会全体の合意によって、二件と 位二件はあい補う成果であるという 他を大きく引き離したので、この上 ついて、無記名投票が行われました。 評価、議論によって絞られた八件に を受け、出席した八名の委員による されました。こうして、紹介、報告 した。登山活動そのもの、山岳文化 その結果、今回受賞された二件が 国際的評価等が考慮されま

ら発表された次の二件でありました。 、三枝礼子 推薦したのは年次晩餐会で会長か 「ネパール語辞典」

薬師義美「新版ヒマラヤ文献日

録」の作成とヒマラヤ関係の著

辞典は将来にわたる視野、 をもとに発刊されたこのネパール語 きっかけに生まれた日本・ネパール く叫ばれる今日、ヒマラヤ登山を れたものであります。国際交流が広 を八年をかけて独力で編纂し発刊さ ついにはわが国初のネパール語辞典 ールとの文化交流に力を注ぎ、 業績は一九六九年以来候補者がネパ -ル文化をわが国に活発に紹介して、 各方面にわたる広範囲な交流活動 の「ネパール語辞典」の編著の 書の翻訳書の刊行 展望を備 ネパ

ヒマラヤの王国、

国語の大縦走

考えられました。 あり、互いにあい補って、第一回秩 たる多大な努力による優れたもので 献をしてきたものと評価されます。 書・訳書も多く、山岳界に多大な貢 もきわめて高く、さらに関連した著 られたこの業績には海外からの評価 実践しながら、膨大な資料をまとめ 得て、増補・改定を行ってまとめら 年第二版を刊行し、さらに十年後の す。一九七二年に私家版、一九八四 が必要との見解から生まれたもので 父宮記念山岳賞にふさわしいものと を原点として、個人として永年にわ れたのがこの業績です。登山活動を から、ヒマラヤ全体を見据えた研究 る薬師氏のヒマラヤ登山の経験の中 一九九四年には欧米の識者の協力を 二の業績は、一九六五年にはじま 以上、これら二つの業績は、登山

受賞者の言葉

三枝礼子

じまったネパー がきっかけでは ル語熱が長引い ヒマラヤ登山

> は一層嬉しい。 の友人たちが今回の受賞をわが事の 辞書作りに協力してくれたネパール ヤの王国の国語の大縦走みたいなも もネパール語の辞書作りは、ヒマラ えて些かの戸惑いも交錯している。 ばれたことで、この上ない栄光に加 ル語辞典』が第一回の受賞対象に選 たあげく、何とかまとめた『ネパー ように誇りに思ってくれたので、私 のだったから、ま、いいか」とか。 山じゃないけれどよいのかな、で

道楽冥利というところ

『新版ヒマラヤ 十数年、そして 作りはじめて三 基本カードを

ずかっています。 さに道楽冥利というところです。し 蔵さんのおだてと励ましが大きくあ とくに故深田久弥さんと故諏訪多栄 まとめたに過ぎないかもしれません。 力の賜物であり、私がただカードを かし、これは国内外の友人知人の助 文献目録』が栄えある賞を受け、ま

るものです。 でしょう。ここに記して謝意を表す これが日の目を見ることはなかった また白水社の大英断がなければ、

薬師義美



委員会・一山を語る」

四十年ぶりのチョゴリザ

ちでチョゴリザを訪ねてみた。 を語る」の講演をお願いした。 をルームにお招きして、第六回 か新しいものをつかみたいとの気持 度訪れてみたいという想いと、何 昨年の十月十六日、平井一正会員 四十年前の体験を振り返り、 山

を占めている。 アワークは今も心の中に大きな比重 ヒマラヤ=未知への憧れ、パイオニ ラヤへの夢は大きくなっていった。 外に出かけていた。心は焦り、ヒマ があり、機会をとらえて同年輩が海 のアンナプルナ偵察などの海外遠征 ル偵察、一九五三年京大から初めて 一九五二年今西錦司さんのマナス

、二思い出してみると、高所登山 そんな想いの中で、当時のことを

った。 の知識や情報もなく、 ウハウはわからないことばかりであ 食糧、 装備など、 高所医学、 高所登山のノ 気

調になると体に浮腫ができる。それ あった。栄養失調だとか、いや違う、 は書かれていず、初めての経験で たとえば、顔が腫れることも文献に な本当の話であった。 ではないかともいわれた。嘘のよう などとまじめに議論された。栄養失 高山病も何もわかっていなかった。

ぞっとする話である。 不足していた、としみじみと語られ には、あまりにも知識、食糧などが やられていたのだろう。今考えると らえなかった。視神経が酸素不足で 食糧が悪いということで聞いてもも でいます」とドクターに訴えたが、 と同時に、未知への挑戦をするため このように当時のことを懐かしむ 隊員一人が「視野の中に虫が飛ん

日本山岳会の各委員会 同好会の活動報告です。

平成十年度自然保護全国集会 講演を締めくくられた。

名に至り熱気あふれた。 都の各支部より九十四名。 富山、石川、福井、関西、 裾にあり、関西の秘境として名高い 会場は京都府北東部の丹波山地の山 府美山町立自然文化村で開催された。 月十四~十五の両日にわたり、 京都支部との共催で、秋晴れの十 一芦生(あしう)の森」に隣接する。 平成十年度の自然保護全国集会は 参加者はJAC本部・首都圏、 越後、信濃、静岡、東海、 福岡、

> 演された。 どを交えて

氷河、山などについて話された。 戦がない限り進歩はない」の言葉で しながらスカルドからチョゴリザベ 山をよくやった。そして未知への挑 貧弱な装備、食糧のなかで、奥深い ースキャンプ付近までの自然、 平井会員は「山は変わっていない。 さらに四十年前のスライドと比較 た貴重な森林と豊富な植物群があり

(藤井昭孝) 山裾の集落とともに文化・自然複合

懸命に努力をしている。森を生かし とをと、また中田脩美山町長は自然 さわしい場所、この集会が役立つこ 帰ってほしい旨の話をされた。 しい。ここで多くのことを学んで る精神がなければ自然保護問題は難 理解し、一体となって自然と共存す 阻止のための登録ではなく、地元を きている。ダム開発の話もあるが、 世界遺産に登録を、という運動も起 くりに役立つことを期待された。 識する合意形成が重要と話し、町づ てきた歴史を本質として、 に対する価値観の変化の中で、みな 酒井敏明支部長は自然を語るにふ

芦生の森から学ぶ

集会は百

には京大演習林として保護されてき 斎藤惇生会長の挨拶では、芦生の森 委員長、内田昌子会員の司会で開会。 十四日午後二時より小西奎二実行 十五種という。ブナ、ミズナラ、天 三種、草本五百三十二種、シダ類八 な植生が確認された。木本二百四十 と冷温帯にまたがっているため豊富 の森林、植物について進み、温暖帯 特徴ある気象、 増え、昨年は一万九千名となった。 年、自然学習のための入山者は年々 十年より九十九年の期間で設定。近 演習林は教育研究の森として大正 地形、歴史から本題

芦生演習林長がスライド、データな

「芦生の森について」講

続いて、竹内典之京都大学農学部

られている。しかし、管理を無視し 期の依存種が多いのが特徴という。 然の杉、さらに固体数の少ない氷河 いと話された。 きることと、農村の原風景を守りた 何とか踏みとどまって山を頼りに生 さらに揚水ダム計画反対論などから 森の暮らし向き、演習林との関わり 状況、共有林六○○へクタールでの まう者として、過去と現在の集落の た行動は慎んでほしいと結ばれた。 森が自慢できる規模として自然が守 ど、お話しいただく。最後に研究の アシウと名のついた種が二つあるな 井栗登京都支部員からは芦生に住

をロマンチックに解説。土地に生き らは、スライドで日本人の原風景、 んだ。 芦生を世界遺産にして残したいと結 のない博物館にしようとの考えから、 てきた人の生活を見て支える、屋根 人が生きる精神的な空間・芦生の森 高松武夫自然保護京都支部委員か

支部活動報告

現地に猛禽類保護センターができる 崩壊したので人工巣を作った。また 山のイヌワシ」その後を。昨年巣が ①山形支部=佐藤淳志委員・「鳥海 ことになった。

③東海支部=橋村一豊委員・芦生の 地震、熊と生ゴミ、砂防ダムの問題 ②信濃支部=植松晃岳会員・上高地

> ⑤福井支部=宮本数男委員・清掃登 ④富山支部=石坂久忠委員・川水の 財産、古代杉の探査山行の報告。 汚染、五色ヶ原のゴミ問題。

号の吉野杉の被害報告。 ⑧山陰支部=小西毅会員・営林署の ⑦関西支部=中谷絹子会員・台風七 植える会ではすでに一万五千本を。 ⑥関西支部=坂下幸一委員・ブナを

バイスを求めてきている。頂上を守 ⑪首都圏=松本恒廣委員・高山植物 ちの周辺の自然を深く考えたい。 ⑩岐阜支部=早田道治委員・自分た ⑨福岡支部=井上晋会員・初参加で る作業は一ヘクタール中六割済。 力委員が指定され、われわれにアド 自然保護のやり方を勉強したい。 森林生態系保護について。大山に協

⑫澤井政信委員・競技登山と自然保 植林交渉について。 護の絵葉書を二万枚配布。ネパール ま学研」グループ活動報告。雷鳥保 る山の自然学講座から誕生した「や ⑩大森弘一郎委員・百十回続いてい めインターハイと国体について早め 護について、複雑な問題を減らすた に運び十一月に植樹。 の石楠花植林は二千五百本シバプリ 盗掘シンポ報告。課題が残された。 に注目したい。マナーノートの件。 白神山地での

以上充実した報告がなされ、 大蔵

> 理事の閉会の言葉をもって四時間余 熱心な交歓が夜遅くまで続いた。 に及ぶ大会の幕を閉じた。質問や討 論は支部との懇親会に持ち越され、

多くの指針をわれわれに与えてくれ 学ぶ」がテーマの今回は現地で行っ 楽しんで解散した。「芦生の森から 行として杉尾峠をめぐる芦生の森を のお骨折りに感謝します。 た。最後に京都支部自然保護委員会 た集会と、視察の探索山行により、 翌十五日は好天の中、懇親探索山

(記録・大森弘一郎 報告·大蔵喜福

紅葉のみちのく行

ジャック昭会・第九回登山集会

山深い泥湯温泉、奥山旅館に着く。 えのマイクロバスに揺られて五十分、 ツーンと鼻をつく臭いの立ち込める 色合いを思いながら、東京発七時二 北となったのは、みちのくの秋をぜ あり参加した。前回に続き場所が東 湯温泉へと向かった。湯沢駅より迎 で全十二名)は、みちのくの名湯泥 十六分、参加者十名(現地合流二名 にそったとのこと。鮮やかな紅葉の ひ……という会員の方々の強い要望 山伏岳への山行に、幹事のすすめも 紅葉の泥湯温泉から小安岳、 平成十年九月二十六、二十七日、

> だった。わがメンバー諸氏が次々と まで堪能した。 夕食前と後に泥湯露天風呂を心ゆく ない限りだ。旅館へ四時過ぎに到着。 お願いした女性の皆さまには申し訳 ぶりながら記念撮影。カメラマンを 滝壺に向かう。頭から湯しぶきをか 衣所に飛び込んで水着になり、流れ ちているこの滝が温泉であった。滝 は! 落差二〇メートル余、水(湯) 前に現れた川原毛大滝湯が温泉だと る。探勝路を下ること二十分、目の の事件もののシーンで見たことがあ 地獄は定番だが、この地獄はテレビ 川原毛大滝湯を探勝に行く。温泉に に入ると紛れもなくぬるめの温泉 壺や浅瀬で数名が入浴していた。脱 量も多く、豪快に音を立てて流れ落 着替えもそこそこに川原毛地獄、

ピンセットの大きなもので次々と焼 を作っているのを見学。生きた蜂を まけがついた。 子を生まれて初めて食べるというお すがに手慣れたものだ。生きた蜂の 酎を満たしたビンに入れていく。さ その夜、旅館の人がスズメバチ酒

高松岳小屋着十一時。昼食後山頂(一 捜索活動もむなしく迷宮入りとなる。 五分着。三角点行方不明事件が発生、 小安岳(一二九二メートル)十時十 気はうす曇り。全員快調なペースで、 翌二十七日は七時三十分出発。

三四九メートル)までピストン。記言四九メートル)までピストン。記念撮影後、虎毛山、神室山を眺めながら話が弾む。山伏岳(一三一五メがら話が弾む。づナを主にした樹林帯感じがする。ブナを主にした樹林帯はなかなかよい雰囲気を出している。道も歩きやすい。紅葉には異常気象のせいか少し早かったが、みちのくの山歩きを十分に満喫できたと実感。の山歩きを十分に満喫できたと実感。

も忘れた山行となった。(久徳秀郎)も忘れた山行となった。(久徳秀郎)とルクティーの味、風呂入り口前のミルクティーの味、風呂入り口前のミルクティーの味、風呂入り口前のミルクティーの味、風呂入り口前の

通りの帰京となった。

後にマイクロバスに乗り込んで予定当然のようにお風呂に直行。旅館を

三水会・第三八三回現地集会

泣面山

五月の例会で川崎精雄名誉会員が 五月の例会で川崎精雄名誉会員が を記述した。 の川崎さん、米寿を迎えた坂倉さん、 がいる。 の川崎さん、米寿を迎えた坂倉さん、 がいる。 の川崎さん、米寿を迎えた坂倉さん、 の川崎さん、米寿を迎えた坂倉さん、 の川崎さん、米寿を迎えた坂倉さん、 の川崎さん、米寿を迎えた坂倉さん、 の川崎さん、米寿を迎えた坂倉さん、

翌十一月一日、八時に山茌を出発。さんが所有)に泊めていただいた。さんが所有)に泊めていただいた。の山荘「帰去来館」(川崎さんの甥御車三台に分乗して東京を出発。山形車の他六十代のメンバーなど十名が

出てない。
翌十一月一日、八時に山荘を出発。
出てない。

沢沿いのかすかな踏み跡を行くと、沢沿いのかすかな踏み跡を行くと、たころどころに目印のテープがあるに雑木林の急登を続けて稜線に出る。に雑木林の急登を続けて稜線に出る。に雑木林の急登を続けて稜線に出る。けて山上を目指す。約二時間半をかして頂上を目指す。約二時間半をかけて七五一メートルの泣面山に到着けて七五一メートルの泣面山に到着

大気のない静かな山だったが、途 中から小雨が降り出し、歩きにくい 中から小雨が降り出し、歩きにくい いただけで、じき下山にかかる。下 りは高圧線を目指し、巡視路を歩く。 がちた林道を進むと約四十分で集落 に出て、出発点の墓地裏には二時三

に感じた。
(樋口公臣)
して地元の人が登らないのか不思議
して地元の人が登らないのか不思議
の往来もない不遇な山であり、どう

館問期会・第二回山行

武奈ヶ岳

加を得ました。 いら八名、京都支部からも八名の参目が武奈ヶ岳で行われました。関東目が武奈ヶ岳で行われました。関東

根本中堂の辺りを散策しました。 市内を一望。その後地下鉄と車を利 市内を一望。その後地下鉄と車を利 市内を一望。その後地下鉄と車を利 市内を一望。その後地下鉄と車を利 市内を一望。その後地下鉄と車を利 市内を一望。その後地下鉄と車を利

途中「鶴来そば処」で今回の成功途中「鶴来そば処」で今回の成功を期して乾杯をしたことはもちろん、 を期して乾杯をしたことはもちろん、 本への下りの急勾配では、足元が心本への下りの急勾配では、足元が心 なの辺りからの琵琶湖の眺めは実に 素晴らしく、湖面に浮かぶヨットは 素晴らしく、湖面に浮かぶヨットは 素晴らしく、湖面に浮かぶヨットは 素晴らしく、湖面に浮かがヨットは 素晴らしく、湖面に浮かがヨットは 素晴らしく、湖面に浮かがヨットは 素晴らしく、湖面に浮かがヨットは 素晴らしく、湖面に浮かがヨットは 素晴らしく、湖面に浮かがヨットは 素晴らしく、湖面に浮かがヨットは 素晴らしく、山田に浮かがヨットは を添えてくれました。 JR比叡山坂 を添えてくれました。 JR比叡山坂 を添えてくれました。 JR比叡山坂

に話が弾むのです。やはりこれが「岳れも、ずっと以前からの知己のようり合いました。今日が初対面の顔ぶただき、それぞれの山への思いを語ただき、それぞれの山への思いを語

を、頂上には十一時半到着。 型四日は武奈ヶ岳に登りました。 でき、イブルキノコバをたどり山 見た後、イブルキノコバをたどり山 見た後、イブルキノコバをたどり山 見た後、イブルキノコバをたどり山 見た後、イブルキノコバをたどり山 見た後、イブルキノコバをたどり山 でき、頂上には十一時半到着。

しかしすでに二百人近い人が広場を埋め尽くしているのには驚きました。九月以来長雨が続いたので、久た。九月以来長雨が続いたので、久た。九月以来長雨が続いたので、久た。九月以来長雨が続いたので、久た。九月以来長雨が続いたので、久た。九月以来長雨が続いたので、久た。九月以来長雨が続いたのでともできません。何とかでき地をみつけて昼食にしたのですが、せっかくのワインも出る幕がなかったようです。

午後は西南稜を下り、コヤマノ岳中を八雲ヶ原におり、さらにダケ道中を八雲ヶ原におり、さらにダケ道を下りました。帰着の時間を大幅に遅しています。予定の時間を大幅に遅しています。予定の時間を大幅に遅れて五時に宿舎着。入浴後、短い反省タイムをとり、京都駅で十八時三十分に解散しました。「今回の山行が好評であれば今後もこの趣旨の計が好評であれば今後もこの趣旨の計が好評であれば今後もこの趣旨の計算にこれでよかったのかと反省頻りです。

が止まった。一九三五年十月号に小 士山ケーブルカー反対」の記事に目 正月。古い会報を繰っていて、「富

て学生たちは言った。

0 MI

若者にどう対するのか

体験になった、 なスリップが起こり、それが一番の 安全な場所で一、二度予期せぬ小さ 落停止などのトレーニングに徹した。 た。二日間、 る三人の学生と今年も富士山に登っ 月 アイゼンをはじめてつけ 斜面の登下降訓練、 と冬富士に圧倒され 文 第四号に、

いる。 が九八年十一月二十日、山岳会ルー ムで開かれた医療委員会公開研究会 それから七十年近く、当時の会員

士でアイゼン歩行の訓練('98.12.13) バータートル・ガッシャブル 順化と酸素の使用」。 に感じるだろうか。 この日のテーマは、 「高所 シル

全員が登頂したものの帰路で 無酸素で挑戦し第一次の五名 ンジュンガにシェルパレス、 名の隊員を失った日本山岳会

昌子医師と、五月、カンチェ ムⅡ峰登山隊に参加した堀井

さない、という。 はそんな波乱もあったのだ。 五合目以外は見えないから風致を乱 りぬこうという計画で、 に穴をあけ、 島烏水が書いている。 一年後には撤回された。 山頂までトンネルをく 山岳会は無論反対 富士の横っ 地上に出る 富士に 腹

江本喜伸

のかといふことである」と結ばれて はゆかない。 共に深い淋しさをも感じないわけに 日本からヒマラヤへ登攀隊が送れる その記事の最後は「しかし、それと す、という海外情報が載っている。 イツ隊がカンチェンジュンガをめざ 一九三一(昭和六)年二月の会報 バウアーを隊長とするド それは何時になったら

しかし、簡単に死につながりかねな 広言したくない気分は理解できる。 報告されるべきだと思う。 い、このような事態は、 個人の名誉に関わることだから、

に出席できたら、どんなふう

という巻頭論文を書き、日本山岳会 佐美太郎は「二十六年目を迎へて」 生まれたな、というものだ。 本山岳会からこういう若々しい隊が 筆者が受けた印象は、よくいまの日 前述の会報第四号に編集長の浦松 谷川隊の報告をあらためて聞いて 報告した。 青年部隊の谷川太郎隊長がそれぞれ

ある。 という声を多く聞いた。しかし、 の人が見たと思う。なかなかの出来 ル番組として放映されたため、 材者はすべては、さらせないもので 映えで、感動した、励みになった、 メントは、NHK テレビでスペシャ シルバータートル登山隊のドキ 多く 取

するための睡眠薬の取りすぎー うすうす聞いていたが、やはり熟睡 その原因が何か薬のせいらしいとは、 で隊員の一人が意識を失う状態にな れもかなり多量の たことは、テレビでも伝えていた。 七四〇〇メートルの第四キャンプ 正直ぞっとした。 掘井医師の冷静な事実報告で知 ーであったこと z

何かの形で

を作れないものだろうか。そこで毎 出てくるだろう。 会があれば参加したいと思う若者も 歳以下放談会を常設するとか、 月一線のクライマーの報告を聞くと たちが集まりやすい横断的な るが、そういう組織とは別に登り手 会の中にはいろいろな委員会があ 登山史について学ぶとか、 の機

のような組織がやるべきことがある、 日本の次ぎの世代のために、山岳会 山岳会の未来のため、というよりは という思いが最近強いのである。 年頭に勝手を言わせてもらった。 七百名である。 ちなみに当時日本山岳会の会員数は、 すべきではあるまいか、と提言した。 に、更に深く根を張らせる事に努力 が存在意義を将来に見出そうとする 年々盛んになる日本の登山界

う平均年齢はさらに六十二、三歳ま 誰がみても若さを失おう、としてい なった日本山岳会の当面の問題は、 で上がる可能性もある。 ることであろう。五十七、八歳とい 現在五千八百名を越える大所帯と

わせるだけの魅力がないのだ。 のイメージが強く、入りたい、 会の側に、「終ってしまった人たち」 いう理由だけとは思わない。ただ、 と思

若い人が山に行かなくなった、と

福島支部

たしました。



全国各地の支部から、独自の活動状況を

五十周年記念誌 「やまなみ」

月上旬に仕上がった。 業を進めてきたところ、平成十年七 記念誌の発行を決め、かねて編集作 て創立五十周年を迎えることから、 福島支部は平成九年十二月をもっ

この出版記念会を、九月十二日午

後二時からJR福島駅前「フロンテ 理、五十嵐越後支部長、旧会員本多 本部小倉副会長、庄司宮崎支部長代 簡単に報告したい。 ア」において開催したので、状況を 当日は支部会員四十二名のほか、

隼男氏ら八名の来賓をお迎えして挙 まず佐久間支部長が挨拶「当支部

ートします。 後は手付かずのままになっておりま 発行した記録がありますが、それ以 提言を記念誌に盛り込むことにしま 事の記録を整理保存すること、 て、設立時の経緯とか状況、 十周年になりました。記念事業とし には会員の現況と会や山への思い を発行して一区切りつけることにい したので、五十周年を機会に記念誌 過去には十周年記念誌を一度

が、ご両所には大変なご迷惑をかけ 願ってもないありがたいことでした とになりました。当支部にとっては 改選期と重なり、村木前会長と現斎 こに深く感謝と敬意を表します。 感じることは、戦後の何もかも乏し す」と述べた。 藤会長お二人から玉稿をいただくこ 日時を要したことから、本部会長の た、できあがるまでに足かけ二年の 山への情熱と行動力であります。こ い時代に支部設立を果たした先輩の、 お詫びし、併せてお礼を申し上げま 方々には長らくお待たせしたことを てしまいました。さらに寄稿された 寄せられた先輩の原稿を拝読して ま

ず持って出かけます。

夜も八時を過ぎると夜中のよう

と思ってもいるのです。

新米管理人として赴任し、皆さ

山研の「よさ」を分かち合えたら

そしてまた、来年も多くの人と

んな時の外出には、懐中電灯を必 い夜は、真の闇に包まれます。

いきたいと思っています。

らもその「よさ」を大切に守って いろな角度から認識して、これか

慣れるまでは、

何か落ち着きませ

んでした。

そして音、ここでは家の内にい

遠しく感じられる毎日です。

きました。今は来シーズンが待ち んのお力で閉所を迎えることがで になっても明るい。その明るさに になる上高地と比べ、都会は何時 がないため、月や星の明かりのな

たとえば、夜。上高地には街頭

なぜか不便さを感じるようになっ

くなります。「よさ」を、都会に 高地のゆったりとした時間が恋し

た。便利なはずの都会暮らしに、 の千葉の街への見方が変わりまし

ていました。

二ヵ月が経過しようとしています。

上高地から千葉に戻って、

はや

は非常に便利なはずなのですが、

日がかりの上高地と違い、都会

食糧や日用品などの買い物にも

小さい時から暮らしていたはず

ビュンと流れ去っていきます。 なぜかせわしなく、時間がビュン

そんなことにふと気づくと、上

支部長 (代理)、五十嵐越後支部長、 続いて本部小倉副会長、庄司宮崎

本多隼男氏(旧会員代表)がそれぞ

事業行

は昭和二十二年十二月に設立された

ので、平成九年十二月でちょうど五

きんけんだより 最終回

新米管理人奮闘記

木村太郎・弥生

車、携帯電話。上高地で聞こえて 工の音があふれています。雑踏、

いた風、梢の葉のざわめき、自然

の音はほとんど聞こえません。

ても、

外にいても、絶え間なく人

を皮切りに和やかに歓談した。祝宴 れ祝辞を述べられた。 には、来賓各位から過分のご寄贈が 正夫会員が乾杯の音頭をとり、これ この後祝宴に移り、前支部長中嶋

入れるなど、華やかなサービス特配 で参加者一同を喜ばせた。 あり、支部長はコンパニオンを差し

B 5版縦組、写真八ページ、特別寄 *五十周年記念誌「やまなみ」は、

した。上高地、山研のよさをいろ 戻ってきてまた一つ、再認識しま 年十月二十九日から十一月七日まで (三八六〇メートル)を選んで、 もある台湾第三位の高峰・秀姑巒山 岳(台北市山岳協会選定) さな海外登山・パートVは、

0

一峰で

台湾五



100人余が改めて安全登山の心構えを聴講

秋田支部

台湾・秀姑巒山登山

毎年実施予定の当支部における小

岐阜支部

第二十五回山岳講演会

驒方面隊長として、最前線で活躍さ れた今井主憲警部を講師に招いて、 ラザにおいて、元県警山岳警備隊飛 救助現場から見た山岳遭難の実態 十一月十七日、長良川スポーツプ

から、 組織に加入しないで、 遭難者のほとんどが、山岳会などの につながっている」と指摘。 負って、百人余の命を助けた」体験 問題点をあげて話していただいた。 の対象になっていることが遭難事故 に事例を示しながら「山がレジャー ていない単独登山者が多い」など、 同、改めて安全登山の心構えを聴)浅い中高年者で、登山届を提出し 山岳遭難の救助活動を具体的 しかも、経験 (清水芳彦 「その

をテーマに、講演会を開催した。 会であった。 も交えて、百人余の聴講者があり盛 場へは、会員、会友及び一般の方々 会

追悼記などの構成になっています。 稿・支部会員随想・回想の五十年・

県国保会館内・電話〇二四-五二三 八巻和男(福島市中町三-七 *お問い合わせ=福島支部事務局・

一二七六二

佐久間高男

北アルプスを管轄する神岡警察署に 警備隊飛驒方面隊員として山岳遭難 通算十五年間勤務し、この間、 救助活動に従事した。 これまでに「自分たちの肩に背 今井講師は、岐阜県高山市出身、 监

関古道を通っての往復コースをとっ 恵まれ、とくに八通関大山 た。 の運びとなった。 電話と文書連絡のみで、早々と実施 くに集合しての打ち合わせをせず、 各々の役務分担に責任を任せて、と 力を得て計画はスムーズに進んだ。 旧知の岳友、林照雄氏の全面的な協 を考慮して決め、入山に当たっては 七名となったが、全員慣れもあり、 登山コースは、東埔温泉より八通 参加者は、これまでで最も少ない 山中での五日間は比較的天候に (三四〇

と秀姑戀山は、

の十日間の日程で実施した。 実施日程は農繁期と天候の安定期

崩壊)。なお、本年度から登山者に とである(洪水により下部の階段は 下り、岩窟からお湯が吹き出す秘湯 補助線を走り、途中にある合歓山(三 時間の関係上途中から引き返した。 文山温泉に浸って旅の汗を流したこ 〇メートル)に登ってタロコ峡谷に 四一六メートル)、石門山(三三四 余禄は台湾を横断する東西縦貫公路 工事の準備をしていた。 予定していた達芬尖山は、天候と

は山岳保険の加入が義務づけられて 佐々木民秀

●新ハイキング選書● ●第20巻好評発売中●

角点の

山口ゆき子/横山 岡村美邦共著

A5版·310頁·定価1680円(税込)掲載の山 80山 イキング社の一等三角点の山シリーズの三 「一等三角点の名山100」「一等三角点の名山 「一等三角点の山々」も発売中 ※3冊とも山は重複していません

●日本山岳会選定 ● 話題の本・8 刷増刷 名山

日本編〉(西日本編)

市川静子、岡田敏夫、岡部紀正 A5版·320頁 共著 定価各1680円(税込) 川越はじめ、廣澤和嘉 ※著者はすべて日本山岳会会員です

東京都北区滝野川 7-6-13 新ハイキング社 ☎(03)3915-8110 振替 00130-9-146915

(11)

いる。

途中の崩壊した白洋金鑛山屋は改修 クな眺望を堪能することができた。 中、山頂から中央山脈のダイナミッ

によって命名された山名であると推測される。 昔、この山の麓の御嶽金桜神社(金峰山の里宮) から塩川を渡って東上してきた登拝者は、この山から塩川を渡って東上してきた登拝者は、この山の麓の御嶽金桜神社(金峰山の里宮) だ。今まで見落としていたアングルである。

ら見ると、

か見ていなかったからである。それを裏の北側か

本家の富士山と対等に君臨しているの

私たちは、この山を表(東、

南

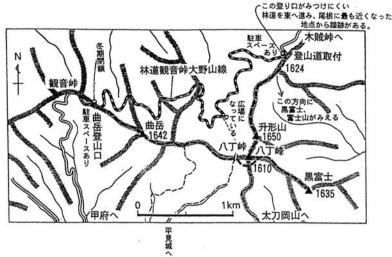
西)側からし

黒富士はやっぱり黒富士だ川梨支部

日本全国の○○富士山に似ていない。日本全国の○○富士、いわゆる「おらがふるさとの富士」の数は、二百座を超えるという。中には、本家の富士山とは似ても似つかぬ山姿の「○とがある。黒富士(一六三五メートル)という。中にとの富士」の数は、二百座を超えるという。中にとの富士」の数は、二百座を超えるという。中にとの富士」の数は、二百座を超えるという。中にとの富士」の数は、二百座を超えるという。中にといるが、これが全然富士山に似ていない。



当欄についてご意見、ご感想、またおもしろいアイディアなどがありましたら、お寄せください。 総務部



		V 1/2			
1	コースタイム	観音峠-70分-登山口-20分-1624m標高点-30分-升形山-10分-八丁峰-25分-黒富士-20分-八丁峰-35分-曲岳-30分-観音峠			
2	記 録	山と溪谷1997年1月号 (No. 738)			
3	地 図	国土地理院(25,000/1地形図) 茅ヶ岳			
4	交 通	往復ともJR中央線甲府駅利用、タクシー60分。復路の予約を降車時にしておくこと。 マイカー1台のときは観音峠に駐車して登山口まで歩く。2台のときは2台目で登山口 へ。観音峠に下山後回収に行く。いずれにも10台分くらいの駐車個所あり(駐停車可)。			
5	付近の観光地	日本観光百選渓谷の部第一位御嶽昇仙峡 金桜神社 昇仙峡パノラマ展望台(ロープウエー運行) 温泉 敷島町営志麻の湯 甲府湯の村温泉郷 (いずれもJR甲府駅前よりバス便あり) 山梨交通乗合自動車課(電話・0552-23-0821)			
6	その他	林道観音峠大野山線は12月10日から翌年4月25日まで曲岳登山口(観音峠)以北はゲート閉鎖 9人乗りジャンボタクシーあり(要予約) 山梨貸切(電話・0552-37-2121) 甲府名鉄(電話・0552-41-3232) 合同(電話・0552-22-5151) 第一交通(電話・0552-24-1100)			
7	参考図書	s. 6			
8	問い合わせ先	山村正光(会員番号5062) 山本稔(会員番号7517)			

日本最古の登山道

 一十二時間の長丁場なので、健脚向きで 女板、「��り尿(ばり)」などの旧跡や、 往時の小屋跡の石垣なども残っている。 程時の小屋跡の石垣なども残っている。 夏は百花繚乱のお花畑、秋は紅葉が見事で、青空の彼方に浮かぶ北アルプスが 事で、青空の彼方に浮かぶ北アルプスが 事で、青空の彼方に浮かぶ北アルプスが な場所は全くないが、下山コースでも十 な場所は全くないが、下山コースでも十

あろう。

り、「日本歴史の道百選」の一つでもあめ、「日本歴史の道百選」の一つでもあ後しかなく、静かな山行が楽しめる。そ後しかなく、静かな山行が楽しめる。その名前のとおり全ルートが石川県内にあり、「日本歴史の道百選」の一つでもありまり、「日本歴史の道百選」の一つでもあり、「日本歴史の道百選」の一つでもありまり。

1	コースタイム	第1日目 JR金沢駅 (バス) - 2時間10分-別当出合い(砂防新道経由) - 5時間30分-室堂(泊) 第2日目 室堂-40分-大汝峰直下(巻き道経由)60分-四塚山-40分-油池-40分-天池室跡-1時間30分-奥長倉ヒュッテ(無人)-40分-口長倉(1660.6m)-40分-��り尿分岐点-15分-檜新宮-2時間-祓(はらい)谷出合い-30分-―里野温泉(泊)第3日目 一里野温泉(バスは午前・午後各1本のみ)-80分-野町駅(タクシー)-20分-JR金沢駅
2	記 録	
3	地 図	国土地理院(25,000/1地形図)市原 新岩間温泉 白峰 白山 加賀市ノ瀬
4	交 通	ゆき JR北陸線金沢駅下車北陸鉄道「白山登山バス」で終点別当出合い下車帰り 一里野温泉 (バス) - 野町駅 (タクシー) - JR金沢駅 北陸鉄道白峰分所 (電話・0761-98-2043) 盛夏期・市ノ瀬側(金~日曜)マイカー規 制あり
5	付近の観光地	岩間噴泉塔群 白山スーパー林道 宿泊 登山口(市ノ瀬) 永井旅館(電話・07619-8-2330) 白山室堂(予約制) 白山観光協会(電話・07619-3-1001) 下山口(一里野) 白山一里野温泉観光協会(電話・07619-6-7412) 白山登山パンフレット請求先 白山観光協会(電話・07619-3-1001)
6	その他	*
7	参考図書	『石川の山』(1988年石川県山岳協会刊) 上馬康生・栂典雅共著『山と高原地図43』白山、エリアマップ(1997年昭文社刊)
8	問い合わせ先	力丸茂穂(会員番号7136) 村上哲(会員番号11892)

エッセイ、俳句、

東

西

南

北

詩などを掲載するページです。どしどしご投 願いします) 会員の皆様のご意見、 点につき二〇〇字詰原稿用紙五~六枚でお (紙面に限りがありますので、

原三角測點に説明碑 奥秩父・雲取山

遠山元信

ある。 れている。設置された明治十五年と I の 側の大滝村発行『大滝村誌 を証明するかのように、 よって設置された標石である。これ 部が設置した三角点以前に内務省に 局」の文字が刻まれた台形の標石が している あり、すでに百十六年の歳月が経過 理局ニテ測量臺ヲ置カル」と記録さ 奥秩父・雲取山山頂に あの秩父事件勃発以前のことで 明治十五年十二月 一般に知られている陸地測量 全」の雲採山の項に、「今地 「明治十九年調 大滝村村誌 地元埼玉県 内務省地理 「原三角測 資料編

除幕式が行われた

九時より、登山者をはじめ東京、 七日現地にて行われた。当日は午前 に設置、その除幕式が平成十年六月 石とともに修復され、説明碑を新た 地理院によって隣りの一等三角点標 今回、その標石を保護すべく国土

那是^{0日,10月}原三角測點,說明碑 除幕式典

明治15年の標石の説明碑が設置され、

に感謝状が授与された。 た当会の新井信太郎、荒船洋両会員 に行われ、この工事に協力参加され 角測點上でGPS測量のデモが盛大 方々が山頂に集まり、除幕式と原三 玉 山梨の測量設計業協会関係者の

なのではないだろうか。 山頂にもあるという。測量分野で文 化財的標石であることを考えると、 日も早く米山も同様な対策が必要 同じ「原三角測點」が新潟県米山

イラスト

野田四郎

田口二郎さんに頼まれたこと

鷗外の詩、 だったと書いておいてくれ」と、生 くことにした。(カッコ内は岡澤注 関係ないが、故人の頼みを受け、 前に頼まれていたので、 「僕が死んだら田口はこの詩が好き 九月に他界された田口さんから、 『扣鈕』を載せていただ 山とは直接 岡澤祐吉 森

扣は鈕な

南山の 袖口の ひとつおとしつ その扣鈕惜し こがねのぼたん たたかひの日に

ぱつさあじゆべるりんの 哲 都大路の 電燈あをき

ない静かな山をあげると、南アルプ

このクラスのあまり登山者が訪れ

スでは、鋸山北方の白岩岳、仙丈岳

鳥海山、大雪山まで山域が広がる。

はたとせまへに「正年」ひぬ

こがね髪 死にもやしけん はや老いにけん えぽれつと ゆらぎし少女 かがやきし友

ももちたり それも惜しけどますらをの玉と砕けし よろこびも はたとせの こも惜し扣鈕 かたはとなりぬ 袖のぼたんよ かなしびも知る 身のうきしづみ

二二〇〇メートル級の山

南川金

を登り終えた。これで二二〇〇メー 後に二二〇〇メートル級の六十三山 ことになる。 トル以上の四百六山をすべて登った この高さになると本州中部に加え 南アルプス小渋川右岸の高山を最

(14)

身に添ふ扣鈕

黒木の森林に覆われている。かつて

―小瀬戸山の稜線は鬱蒼たる

人仙丈を南へ下りながら、右下のび

高山の名前は高山裏露営地とか高山裏避難小屋で知られるが高山その山裏避難小屋で知られるが高山そのなくピークを踏めるであろうが、入・下山に時間を要するので、小渋川から登ることとし、榛沢対岸の尾根に取りついた。頂上はシラビソの森に取りついた。頂上はシラビソの森がで、南・東・西面は展望皆無、北林で、南・東・西面は展望皆無、北村で、南・東・西面は展望皆無、北村で、南・東・西面は展望皆無、北村で、南・東・西面は展望皆無、北村で、南・東・西面は展望皆とができた。

東山は、ある年の暮れ、市野瀬から仙丈に登った時に、二四六〇メーら仙丈に登った時に、二四六〇メーら仙丈に登ったは、丸山を目の前にしきた幼木が密生していて進むに進めまた幼木が密生していて進むに進めないとあっては、丸山を目の前にしないとあっては、丸山を目の前にしないとあっては、丸山を目の前にしないとあっては、丸山を目の前にしないとあっては、丸山を目の前にしないとあっては、丸山を目の前にしまった。

新しく開通した安房トンネルを飛 の谷の正面に笠ヶ岳が見えてくる。 の谷の正面に笠ヶ岳が見えてくる。 をの手前、左右に長い稜線の黒い山 が大木場ノ辻である。栃尾、蒲田な が大木場ノ辻である。栃尾、蒲田な が、山菜の山ではないためか、地元 が、山菜の山ではないためか、地元 の人もほとんど入らないようだ。急 の人もほとんど入らないようだ。急 は見えないが、小糸谷と洞谷の間の は見えないが、小糸谷と洞谷の間の

え、すでに六月とあっては、樹林のて板戸岳を往復した。冬の寡雪に加ント場から大ノマ乗越、秩父平を経だった。小池新道の鏡平入り口のテだった。小池新道の鏡平入り口のテだった。小池新道の鏡平入り口のテを望む低い笹の気持ちのよい頂上を望む低い笹の気持ちのよい頂上を望む低い笹の気持ちのよい頂上

がら、その時のことを思い出して苦

のである。

丸山・小瀬戸山に登りな

ばよほどの酔狂だろう、と思ったも

)のような山に登る者がいるとすれしりと森林に覆われた稜線を見て、

は無理な話であった。

動機となった一冊の案内書アルバータ初遠征の

このアルバータ遠征計画は、登山されることは興味深い。
ータ初登頂から七十有余年経った昨ータ初登頂から七十有余年経った昨ーの一九二五年(大正十四)のアルバー九二五年(大正十四)のアルバーカニ五年(大正十四)のアルバーカニ五年(大正十四)のアルバーカニ五年(大正十四)のアルバーカニ五年(大正十四)のアルバーカニ五年(大正十四)のアルバーカニューをは、

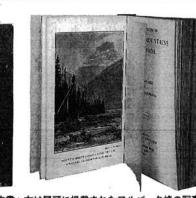
を目的としてわが国初の組織的な海外遠征であったことから、登山史のうえでも高く評価され、特筆されているところである。当時、日本の山岳会にはすでにヒマラヤを目指す機岳会にはすでにヒマラヤを目指す機とマラヤ遠征隊(ナンダ・コット、ヒマラヤ遠征隊(ナンダ・コット、ウンダ・コット、カルバータの遠征から十年も経ったアルバータの遠征から十年も経ったアルバータの遠征から十年も経ったアルバータの遠征から、登山史の力に対している。

の期待 | ヒマラヤに目を向けている時代にの期待 | あった。

ダの共に著名の登山者であった。そ 中で細川氏が一冊のガイドブックを 荘にスキーに行った。その帰途、 あったのか。隊長であった槙有恒氏 なぜアルバータ(ロッキー山脈) られた」(『わたしの山旅』一九六八 は熱心に私に試みるよう励められた。 われる説明に興味を覚えた。細川氏 マウント・アルバータという説明が 挿入されていて、恐るべき未登の山 の案内書の巻頭に一枚の山岳写真が 氏は合衆国、ソリングトン氏はカナ キー登山案内』であった。パルマー トン両氏共著になる『カナダ・ロッ 示した。それはパルマー、ソリング 父宮殿下にお伴して赤倉の細川氏別 いて次のように記している。 は、のちにこの遠征計画の動機につ 殿下もまた側から是非試みよと励め ついていた。一同はこの誇大とも思 「この年(大正十三年)の暮れ、 車

で、遠征の発端がこの案内書であったことに触れている(『わが登高かで、遠征の発端がこの案内書であかで、遠征の発端がこの案内書であかで、遠征の発端がこの案内書であかで、遠征の発端がこの案内書であったことに触れている(『わが登高

年・岩波新書)。



- 夕峰の写真

A CLIMBER'S GUIDE ROCKY MOUNTAINS CANADA 「カナダ・ロッキ

行』上巻、 このようにして、車中ではじまっ 一九七九年·茗溪堂)。

枚の写真であったというのも大変興 えることになるわけであるが、この 史の一つとして記憶されるべきであ 情熱のほとばしりを見る思いがする。 海外遠征に対する若き先駆者たちの 味のあるところである。この時代の 遠征の動機となったのが一冊の案内 日本の登山史に輝かしいページを加 た日本初の海外遠征計画は実行され これらの経過は、海外登山の裏面 しかもそこに挿入されていた一 遠征の動機となったこの案内

> 金文字入りでアズキ色のハードカバ その概略を記し参考に供したい。 れている。 からも近づき難い」との説明が付さ 外見は極めて壮大であり、どちら側 最も困難な岩峰の一つになるだろう。 多分、カナディアン・ロッキーでは 場所に続いて、「未踏峰であるが、 記述があるにすぎない。高さ、立地 バータの項には、わずか数行の短い ー。一八三ページ。なお本書のアル 体裁は丸背の新書版サイズ。 会のために発行したとうたっている。 プレス」が発行。扉にアメリカ山岳 ニューヨークの「ニッカーボッカー 少ないと思われるので、この機会に この案内書の初版は一九二一年、

の挿入がないのも珍しいことである。 タの写真を除いて、他に一枚も写真 頭のパルマー氏撮影によるアルバー がら、遠征の直接の動機となった巻 またこの案内書はガイドブックな

魅力の南アルプス縦走

呂川越を経て三峰岳に登り、 で、入山者の少ない両俣小屋から野 昨年の八月二十日から二十三日ま 松岡 仙塩尾

> 的な山行だった。 らに転付峠を越えて田代バス停―身 ら徳右衛門岳―二軒小屋に至る。 根を登降して塩見岳登頂、 延駅に下山した。長大で重厚な印象 蝙蝠岳か 3

もあって、一般には目にする機会も

書は外国のガイドブックということ

ザミに驚く。 乗ることができた。満員で三台のマ 乗車。広河原ロッジに十時五十分到 下に野呂川の清流を見て、 橋で下車し、広い林道を歩く。左眼 イクロバスは定員超過だった。 着。数百人の登山者で賑やかだった。 した。午前九時に広河原行きバスに 時間二十分後にやっと村営バスに 甲府駅で本会の照内豊会員と合流 巨大なア 北沢

りだった。二十時三十分夢路につい 俣小屋には約三十名、 を設営した。夕食後付近を散策。 テント料金四百円を払って軽テント 二時間二十分で両俣小屋に着く。 テントは十張

仙丈ヶ岳、三峰岳、 や岳樺の樹林帯の急坂だった。野呂 の感動だった。 景観は見事だ。甲斐駒ヶ岳、 川越に六時二十分着。 二日目は五時十分出発。 崇高な雄姿は涙が出るほど 間ノ岳、 独標を過ぎて シラビソ 鋸岳、 農鳥岳

ぎて高嶺の花が美しい。熊ノ平小屋 の熊ノ平小屋も見えた。三国平を過 がら三峰岳に到着。 岩屑と岩稜の急登を重荷に喘ぎな 遥かに赤い屋根

今日も十二時間登高で疲れた。

屋から小岩峰付近は樹林と草原で縦 自販機なら二百三十円)で買う。小 はなし。缶ビールを七百円(都会の に正午頃着き、昼食をとる。 走路の山道も明瞭だった。 宿泊客

睡した。 時間以上も歩いたので、その夜は熟 冷える。一三キロの重荷を背負い十 八張りのテントあり。夜霧が降りて 涼でまさに南アルプスの天然水だ。 荒川岳キャンプ指定地着。お花畑の に峰を越え突起を登り、十六時半北 高峰直下で露営は楽しい。水場は清 安倍荒倉岳の三角点を踏む。さら

見て歓喜する。 で乾杯。畳の部屋で心地よく眠る。 登山小屋素泊まりは私たち二人の貸 まった。十七時五十分二軒小屋着。 降下にまいった! 二回も転んでし を下り発電用貯水槽に至る。 礫と岩屑の広い山道で稜線漫歩の気 帯の道を泳ぐ如く上り下りした。砂 る。蝙蝠岳の山容は美しい。這い松 点にザックを置いて塩見岳を往復す に感動し、溜息が出る。蝙蝠岳分岐 北俣岳への登り稜線で雷鳥の親子を 前はガレ場だ。晴天の黎明だった。 にテント場を出発した。雪投沢の手 し切りだ。簡素な夕食をとりビール 三日目は三時半起床、 徳右衛門岳で昼食休憩。 塩見岳のバットレス 四時四十分 凄い急

二五〇〇メートル以上の高峰を十数 望台からは千枚岳が眺望できた。残 バテました! 髄を満喫した登山だった。 座も登高し、 に田代バス停にたどり着いた。 人と、岩魚釣り三人に会う。十四時 暑が厳しく汗が出る。途中登山者五 発。転付峠には八時に着く。 思えば四日間とも晴天に恵まれ、 四日目は部屋の掃除をして六時出 頑張りとアルプスの神 いささか 第一展

記念講演会・記念パーティーチョゴリザ初登頂四十周年

考えることを目的として、昨年十一 り返り、今後の海外登山のあり方を のヒマラヤブームの導火線になり は、厳しい外貨状況、資金難、乏し の処女峰チョゴリザ(七六五四メー 若い世代に大きな影響を与えた。 よるヒマラヤ初登頂として、その後 リザ登頂はマナスルにつぐ日本人に ほど困難な状況で行われた。チョゴ 十年に当たる。当時のヒマラヤ遠征 トル)に初登頂してからちょうど四 (以下AACKと略) い情報など、今では想像がつかない そこでチョゴリザ登頂の意義を振 九九八年は京都大学学士山岳会 がカラコルム

とすると、今西マンダラを誰がどう

月八日午後一時半から京都市左京区 ティーを開催した。以下はその概略 の京大会館で記念講演会と記念パー

思ってみるとAACKの歴史は今西 ら伝わる宇宙観を表わすマンダラを 図ではないか。これは古来インドか がある。これはおそらく今西錦司さ 東は横断山脈に至る大きなサークル ラコラム、さらに大ヒマラヤ山脈、 ロン山脈、西はヒンズークシュ・カ AACKの活動は、北は天山、コン から次のような祝辞をいただいた。 あと、村木潤次郎前日本山岳会会長 でも未知に対する好奇心が行動原理 ラを見直す時期にきている。 マンダラで解き明かされるように思 イメージしたものではないか、そう んが望み、考えていたひとつの鳥瞰 、村木潤次郎前会長の祝辞 上尾圧一郎AACK会長の挨拶の しかしそろそろ山登りのマンダ あくま

> 少なく、登山は大衆の理解を超えた とき、登山家である先生が知性あふ ダラスにある私の両親の家を訪ねた 果が出ることを願った。 ことを理解し、息子に似たような結 登山とは素晴らしいスポーツである るる紳士であることを知った両親が、 スポーツであった。当時桑原隊長が 四十年前、アメリカでは登山家は

まし、その結果、山は神聖なものと かし登山の複雑さの中に共通した主 山の経験の複雑さを示している。 ある意味では日本の複雑な文化は登 富士山の美は日本の精神を代表し、 みなされた。万葉集にあるように、 共通する感情―美と畏怖―を呼び覚 雑な魂を反映する一方、それはまた できない。山は魂の鏡であって、 れを経験したことのない人には説明 ざり合ってできる全体の感情は、 い。挑戦、美、恐怖、歓喜などが混 登山は複雑で二度と同じ経験はな ピークとチョゴリザ」という題目で あったN・クリンチさんが「ヒドン たって考えるべき大きな問題である。 点であるチョゴリザ四十周年に当 いうふうに変えていくかは、その起 一、クリンチさんの記念講演 九五八年のヒドンピークの隊長で 次に元アメリカ山岳会会長であり

ようである。 記念講演をされた。要約すると次の

理解しあえることである。登山が危 国々からきた登山家たちがお互いに 題がある。それは異なる文化を持つ ゴリザ成功にお祝いを述べること、 くの友情である。今私はここでチョ 四十年前のカラコラムでの成果は多 はない。知ることは友情を生み出す。 とはできず、それは知るほかに方法 本性を露にされる。それを避けるこ れるだけでなく、浄化され、内側の ヒマラヤにおいては登山家は純化さ なっても山から感動と恩恵を得る。 れは山岳の美である。人はいつに 険を伴うほかの活動と違うのは、そ および多くの日本の登山家たちへの およびこの四十年間の彼らの友情



北米の大自然を訪ねる(7人で催行)

TEL.03-3503-1911 福岡☎092(715)1557 名古屋☎052(581)3211

えることができることを感謝したい。 友情をどれほど評価しているかを伝 三、パネル討論

ご意見をいただいた。 ある山登りを、などの意見が述べら 平林克敏(同志社大)、井上達男(神 れた。その他フロアからコメントや よりオンリーワンであるような特色 ヒマラヤ登頂のみならず、プラスア の示唆も必要、GPSの利用など、 移行、結果のみを求めるのでなく、 登山に対する意見を語ってくれた。 戸大)、松沢哲郎(京大)で、それ れた。パネリストは藤平正夫(京大)、 ルファを楽しむこと、ナンバーワン 過程が大切で、そのために先輩から たとえば垂直思考から水平思考への ぞれ個人的な経験から、今後の海外 今後の海外登山のあり方―が行わ 次に斉藤清明司会で、パネル討論

閉会の辞で閉会とした。

四、ビデオ上映

ジナル映画はAACKで保管してい ザ」が上映された。一六ミリのオリ 移った。三好郁朗京都大学副学長、 るが、会場の関係でビデオにした。 りに、約百二十人が歓談する大盛会 小倉茂暉JAC副会長の挨拶を皮切 午後六時から記念パーティーに 最後に田中二郎AACK副会長の 続いてビデオ「花嫁の峰チョゴリ 記念パーティー

> ろって出席した(潮田三代治カメラ 桑原武夫、加藤泰安、脇坂誠を除き となった。ちなみに当時の隊員は、 席できなかったことは残念であっ マンも健在だが、当日体調を崩し出 全員健在で、桑原夫人も交え全員そ

げていただいた。記して感謝する。 じめ常任委員の方々、また多くの会 員のご参加をいただき、会を盛り上 最後にJACからは村木前会長は (京都大学学士山岳会)

「老化は足から来る」は本当か?

果はほとんどの老人がまともに立て 型通りに両足をそろえて立てるかど の検査を行った。台紙に描かれた足 正常な人はきちんとできた。 もだめ。だが、高齢者でも思考力の 頭のボケかかった人は脇から支えて なかった。さほど高齢でもないのに らないような簡単なものである。 うかという、普通の人なら問題にな ある老人病院で直立能力について

とそろえて立つことはすべての動作 致することが証明されたのである。 なる時期は老化現象の発現時期と そして、両足をそろえて立てなく すなわち、二本の足の裏をきちん

ず人間らしく生きることの要件であ

とが老化防止の大原則なのだ。その が発生することがわかったのである。 するのは老化を早めるだけである。 しろ逆である。まず、頭を鍛えるこ きるという発想は短絡的であり、む にあって、そこから機能の老化現象 る。つまり、大脳の老化がまず初め 動機能、視力、聴力の低下が発現す かボケないとはよく聞くことだが、 る人(医師・小説家など)はなかな ための努力をせずに健康食品をあさ さえ怠らなければ頭の老化を防止で うなずける話である。 てあったことの受け売りである。 ったり、また、むやみに運動したり 郎著・筑摩書房)という本に書い 年をとっても知的な仕事に従事す 以上は「足の裏を語る」(平沢彌 したがって、足を鍛えるなど運動

うだ。老化を予防するには大脳を怠 ことらしい。 前向きな生活態度で頭を使い続ける く持ち、ロマンチシズムを失わず、 けさせないこと、つまり、 痴呆化の原因と直接には関係ないよ 康は何ものにも代え難い宝であるが、 康登山の盛んな昨今である。 体の健 「老化は足から来る」とばかり、 もっとも、これらはとりもなおさ 視野を広

> る。逆にいえば、人間らしく生きな いことで、早ばやと動物状態(痴呆) への回帰がはじまるのであろうか。 さて、右に関連してもう一つ再検

るとそれができなくなり、同時に運 の基本であるが、大脳の老化が始ま

これも怪しい。 こまれ、広く知られた言葉であるが、 る」というのは小学校の頃から教え 「健全なる精神は健全なる身体に宿

討したい言葉がある。

ちの多くは不健康な肉体を有してい たことが知られている。 索を遺した歴史上の宗教家・哲人た 後世に精神の糧ともなる偉大な思

ずであるばかりか、頭でっかちの危 神的に不健全であるから、丙種合格 ち、健全なる身体を有しない者は精 この言葉にはウラがあった。すなわ はきわめて健全であったように思う。 時は意気軒昻と不健全なことを考え カンぐられることもあった。 険思想を持っているのではないかと 者などは一人前の兵士として役立た 病気がちの時は沈思黙考、精神的に 実行して失敗することもあったが、 また、戦前、徴兵検査とからめて 私の過去からいっても。健康体の

鍛えておきたいものである。 う。頭(洞察力)のほうもしっかり 民化)政治に浸っていては、やがて いことだが、甲種合格のままボケ(愚 脳が蝕まれ、直立能力も衰えるだろ 健康登山で体を鍛えるのは大変い

図書受入報告(1998年11月)

278pp/22cm 山と渓谷社 1958 出版社寄贈 253pp/19cm 山と渓谷社 1957 出版社寄贈 253pp/19cm 山と渓谷社 1958 出版社寄贈 151pp/24cm 山と渓谷社 1956 出版社寄贈 151pp/24cm 山と渓谷社 1956 出版社寄贈 151pp/24cm 山と渓谷社 1956 出版社寄贈 151pp/24cm 山と渓谷社 1956 出版社寄贈 151pp/24cm 山と渓谷社 1958 出版社寄贈 1958 計算 151pp/20cm	著 者	書	名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入
現田治 空飛ぶ山岳教助隊: へリ・レスキューに命を懸ける男、篠原秋彦 151pp/24cm 山と渓谷社 (編) 関東百名山 151pp/24cm 山と渓谷社 (編) 関東百名山 151pp/24cm 山と渓谷社 (編) 地で海首名山 151pp/24cm 山と渓谷社 (編) 地で海首名山 151pp/24cm 山と渓谷社 (編) 地で海首名山 151pp/24cm 山と渓谷社 1958 出版社寄贈 北海道百名山 151pp/24cm 山と渓谷社 1958 出版社寄贈 北海道百名山 151pp/24cm 山と渓谷社 1958 出版社寄贈 北山直樹 ソロ・単独登撃者 山野井泰史 286pp/20cm 48pp/34cm 48	A.ブクレーエフ他(著) 鈴木主税(割	ひデス・	ゾーン8848M:エヴェレスト大量遭難の真実	289pp/20cm	角川書店	1958	出版社寄贈
1と渓谷社 (編)	根深誠	シェル	パ:ヒマラヤの栄光と死	278pp/22cm	山と溪谷社	1958	出版社寄贈
山と渓谷社 (編) 関東百名山 151pp/24cm 山と渓谷社 1956 出版社寄贈 151pp/24cm 山と渓谷社 1958 出版社寄贈 151pp/24cm 15	羽根田治	空飛ぶ	山岳救助隊: ヘリ・レスキューに命を懸ける男、篠原秋彦	253pp/19cm	山と溪谷社	1958	出版社寄贈
は長谷比板支局(編) 関西百名山 北海道百名山 北海道百名山 北海道百名山 北海道百名山 カロー 神独登攀者 山野井泰史	山と溪谷社(編)	九州百	名山	151pp/24cm	山と溪谷社	1957	出版社寄贈
振沢俊・伊藤健次 北海道百名山	山と溪谷社(編)	関東百	名山	151pp/24cm	山と溪谷社	1996	出版社寄贈
159pp/24cm 15p4 shi highqingtevp- (銀酵機明日国立公園:溶土中・裏整梯(新・美しい国立公園 No.16) 48pp/34cm 15p4 shi highqingtevp- (銀酵機明日国立公園:浄土中・裏整梯(新・美しい国立公園 No.16) 48pp/34cm 15p4 shi highqingtevp- (銀酵機明日国立公園:浄土中・裏整梯(新・美しい国立公園 No.16) 48pp/34cm 15p4 shi highqingtevp- (銀藤根) 15p4 shi highqingtevp- 15p4 shi hig	山と溪谷社大阪支局(編)	関西百	名山	151pp/24cm	山と溪谷社	1958	出版社寄贈
経療境研究センター (編)	梅沢俊・伊藤健次			159pp/24cm	山と溪谷社	1953	出版社寄贈
経環境研究センター (編) 磐梯朝日国立公園:浄土平・裏磐梯(新・美しい国立公園 No.16) 48pp/34cm 自然公園美化管理財団 1958 発行者寄贈 東京新聞出版局 1958 出版社寄贈 日本で作されています。 日本の名書30選:モダン・アルビニズムをリードした知性たち 267pp/19cm 東京新聞出版局 1958 発行者寄贈 長冲通 (私家版) 1958 著者寄贈 日本通 (本家) 東京新聞出版社 1998 出版社寄贈 日本 (編) 東京 (第3巻) :地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて 日本 地理大系 (第10巻) :地海道・樺太龍 中高年のための登出医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1958 出版社寄贈 日本 地理大系 (第10巻) :北海道・樺太龍 中高年のための登出医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1958 発行者寄贈 日本 (本京 (編) インド・セマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)初登頂 インド・セマラヤ探訪・秘境キンノールの山々を訪ねて 233pp/21cm セスト (本京 (本京 (本) (基) (基) (上で、大京 (本) (基) (基) (上で、大京 (基) (基) (上で、大京 (基) (基) (基) (上で、大京 (上で、大京 (基) (上で、大京 (上で、大京 (基) (上で、大京 (上	丸山直樹	ソロ:	単独登攀者 山野井泰史	286pp/20cm	山と溪谷社	1958	出版社寄贈
温島功夫 山の名著30選:モダン・アルビニズムをリードした知性たち 267pp/19cm 東京新聞出版局 1958 出版社寄贈 27/旅行社 (編) パキスタン登山の手引き (1998年10月作成) 43pp/29cm 77pp/13cm 長神通 (私家版) 1954 著名寄贈 長神通 (私家版) 1954 著名寄贈 松・尾瀬讃歌:尾瀬の春・夏・秋 55pp/13cm 長神通 (私家版) 1958 著名寄贈 出める記:大きさと厳しさ・美しさと優しさ 140pp/30cm 特品社 1998 出版社寄贈 四番・ (編) 中に谷直 関西の山・日帰り縁走 229pp/20cm 特品社 1998 出版社寄贈 229pp/20cm 特品社 1998 出版社寄贈 229pp/20cm 中品社 1998 出版社寄贈 229pp/20cm 中品年の (第3巻):地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて 174pp/20cm カーニシャ出版 1997 出版社寄贈 中元半主 (編) 日本地理大系 (第10巻):北海道・棒太篇 1518pp/27cm 改造社 1930 富田曼一氏等 本意素雄 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 改造社 1930 富田曼一氏等 本音寄贈 425kg 243pp/19cm 改造社 1930 富田曼一氏等 本音寄贈 425kg 243pp/19cm 改造社 1930 富田曼一氏等 本音寄贈 425kg 243pp/19cm 改造社 1930 富田曼一氏等 本音の インド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)初登頂 インド・ヒマラヤ探訪:秘境キンノールの山々を訪ねて 233pp/21cm ななの会 (編) インド・ヒマラヤ・ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)初登頂 インド・ヒマラヤ探訪:秘境キンノールの山々を訪ねて 233pp/21cm ななの会 1998 発行者寄贈 42kg 24pp/20cm 中京山岳会 (編) インド・ヒマラヤ探訪:秘境キンノールの山々を訪ねて 233pp/21cm ななの会 1998 発行者寄贈 42kg 24pp/20cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 42kg 24pp/20cm 中京田系一(表) 山歩十年・入谷山歩会創立10周年記念誌(1988 - 1998) 18pp/21cm 中高年のための山の道具の選び方:失敗しない道具の買い方・使い方 18pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 発行者寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 社版社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 発行者寄贈 1998 表式のよらに氏書を終しまたいる。 25mp/21cm 山海堂 1998 上版社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 最近社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 社所社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 社院社寄贈 25mp/21cm 山海堂 1998 発行者寄贈 1998 表式のよらに氏書のよらいの山本学のように表述を持ているのように表述を持ているの山本学のように	自然環境研究センター(編)霧島屋	久国立公園:霧島 (新・美しい国立公園 No.7)	48pp/34cm	自然公園美化管理財団	1996	発行者寄贈
日 / 旅行社 (編) パキスタン登山の手引き (1998年10月作成) 43pp/29em 日 / 旅行社 1958 発行者寄贈 長神通 尾瀬讃歌 : 尾瀬の春・夏・秋 77pp/13cm 長神通 (私家版) 1954 著者寄贈 接中通 統・尾瀬讃歌 : 尾瀬の春・夏・秋 85pp/13cm 長神通 (私家版) 1958 著者寄贈 担田澄 山ある記: 大きさと厳しさ・美しさと優しさ 140pp/30cm 林野弘済会 1958 著者寄贈 担田孫一・他 (編) か大 山 (日本の名山 No.19) 251pp/20cm 博品社 1998 出版社寄贈 神田孫一・他 (編) 25pp/20cm 持品社 1998 出版社寄贈 中田孫一の (第2巻): 揖斐川水系の山(2)・長良川水系の山 京都北山を歩く (第3巻): 地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて 山伏と尊皇 174pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 中成と尊皇 16本地理大系 (第10巻): 北海道・樺太篇 中高年のための登山医学: 山のドクターがアドヴァイス 184pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 174pp/30cm 東京書籍 1998 著者寄贈 47ッド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)利登頂 インド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)利登頂 インド・ヒマラヤ・ラグック地方トゥジェ峰 (6148m)利登頂 オインド・ヒマラヤ・ラグック地方トゥジェ峰 (6148m)利登頂 オインド・ヒマラヤ・ラグック地方トゥジェ峰 (6148m)利登頂 233pp/21cm からしま百山 (登山ガイドブック) 233pp/21cm からしま百山 (登山ガイドブック) 233pp/21cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 ヤ村久・神道子 足利からの山旅 210pp/22cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 210pp/22cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 210pp/22cm 中国新聞社 1998 著者寄贈 210pp/22cm 189pp/30cm 189pp/30cm 180pp/30cm 180pp/30	自然環境研究センター(編)磐梯朝	日国立公園: 浄土平・裏磐梯(新・美しい国立公園 No.16) 48pp/34cm	自然公園美化管理財団	1998	発行者寄贈
展神通 尾瀬讃歌 : 尾瀬の春・夏・秋 77pp/13cm 長神通 (私家版) 1954 著者寄贈 統・尾瀬讃歌 : 尾瀬の春・夏・秋 85pp/13cm 長神通 (私家版) 1958 著者寄贈 山ある記 : 大きさと厳しさ・美しさと優しさ 140pp/30cm 林野弘済会 1958 著者寄贈 日野平・他 (編) 井山 (日本の名山 No.19) 251pp/20cm 博品社 1998 出版社寄贈 日野子・他 (編) 御戯山 (日本の名山 No.11) 252pp/20cm 増品社 1998 出版社寄贈 日野子・佐田岳協会 (編) 美濃の山 (第2巻) : 揖斐川水系の山(2)・長良川水系の山 252pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 京都北山を歩く (第3巻) :地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて 174pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 日野子・住茂 山伏と尊皇 16pp/19cm 平凡社 1941 富田健一氏寄 174pp/20cm ナカニシヤ出版 1991 出版社寄贈 1998 著者寄贈 1998 著者寄贈 1998 著者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 23pp/21cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 1998 出版社寄贈 1997 23pp/21cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 1998 出版社寄贈 1997 20cm 力が国の大山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告 189pp/21cm 地質調査所 1998 出版社寄贈 1998 出版社寄贈 1999 出版社寄贈 189pp/21cm 地質調査所 1998 出版社寄贈 1998 出版社寄贈 1999 出版社寄贈 1999 出版社寄贈 1999 出版社寄贈 1999 出版社寄贈 1999 出版社寄贈 1999 出版社寄贈 1998 出版社 1998 出版社寄贈 1998 出版社寄贈 1998 出版社寄贈 1998 出版社寄贈 199	福島功夫	山の名	著30選:モダン・アルピニズムをリードした知性た	5 267pp/19cm	東京新聞出版局	1998	出版社寄贈
表・尾瀬讃歌:尾瀬の春・夏・秋 85pp/13cm 長沖通 (私家版) 1958 著者寄贈 山ある記:大きさと厳しさ・美しさと優しさ 140pp/30cm 林野弘済会 1958 著者寄贈 山ある記:大きさと厳しさ・美しさと優しさ 140pp/30cm 林野弘済会 1958 著者寄贈 日田孫一・他 (編) 大 山 (日本の名山 No.19) 251pp/20cm 博品社 1998 出版社寄贈 関西の山・日帰り線走 229pp/20cm カーニシヤ出版 1998 出版社寄贈 東京 (第2巻):揖斐川水系の山(2)・長良川水系の山 264pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 京都北山を歩く (第3巻):地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて 174pp/20cm デルニシヤ出版 1997 出版社寄贈 1997 出版社寄贈 1998 上版社寄贈 1998 本著寄贈 1998 茶者寄贈 1998 本書寄贈 1998 著者寄贈 1998 大森薫雄 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 1998 著者寄贈 1998 「科学的にとらえた中高年登山」シンポジウム (1998・11・28・明治大学) 1997 中京山岳会 (編) インド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)初登頂 44pp/30cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈 240人・沖道子 足利からの山旅 233pp/21cm 233pp/21cm ぶなの会 1998 著者寄贈 1998 大漁県山岳連盟 ひろしま百山 (登山ガイドブック) 233pp/21cm 233pp/	日バ旅行社(編)	パキス	(タン登山の手引き(1998年10月作成)	43pp/29cm	日パ旅行社	1958	発行者寄贈
世田澄 山ある記:大きさと厳しさ・美しさと優しさ 140pp/30cm 林野弘済会 1998 著者寄贈 1998 中原子・他(編) 大 山 (日本の名山 No.19) 251pp/20cm 博品社 1998 出版社寄贈 19日子・他(編) 御嶽山(日本の名山 No.11) 252pp/20cm 博品社 1998 出版社寄贈 19日子・他(編) 関西の山・日帰り縦走 229pp/20cm ナカニシヤ出版 1998 出版社寄贈 1997 中の二の山・日帰り縦走 229pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 1997 中の二の上では 1998 東京書籍 1998 著者寄贈 1998 著者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 子の上の正には 1998 中の二の上では 1998 日版社寄贈 1998 出版社寄贈 1998 日本記述書	長沖通	尾瀬詩	計歌 : 尾瀬の春・夏・秋	77pp/13cm	長沖通 (私家版)	1994	著者寄贈
日田孫一・他(編) 大 山 (日本の名山 No.19)	長沖通	続・尾	Z瀬讃歌:尾瀬の春・夏·秋	85pp/13cm	長沖通 (私家版)	1998	著者寄贈
#田孫一・他(編) 御嶽山(日本の名山 No.11) 252pp/20cm 博品社 1998 出版社寄贈 1941 1941 1997 出版社寄贈 29pp/20cm ナカニシヤ出版 1998 出版社寄贈 29pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 20pp/20cm ナカニシヤ出版 1998 出版社寄贈 20pp/20cm ナカニシヤ出版 1998 出版社寄贈 20pp/20cm 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 20pp/20cm オ学的にとらえた中高年登山」シンポジウム(1998、11.28、明治大学) 3ppp/30cm 月名C科学委員会(編) インド・ヒマラヤ、ラグック地方トゥジェ峰(6148m)初登頂 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈 233pp/21cm ぶなの会 233pp/21cm ぶなの会 233pp/21cm シろしま百山(登山ガイドブック) 233pp/21cm シスしま百山(登山ガイドブック) 233pp/21cm 中国新聞社 1998 発行者寄贈 27cm みすず書房 1998 当版社寄贈 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 27cm 人・道子(私家版) 1998 著者寄贈 27cm 人・道子(私家版) 1998 著者寄贈 27cm 人・道子(私家版) 1998 著者寄贈 27cm 人・道子(私家版) 1998 著者寄贈 27cm 人・当中村久一(編) 山歩十年:入谷山歩会創立10周年記念誌(1988 – 1998) 189pp/30cm 人谷山歩会 1998 日版社寄贈 27cm 人谷山歩会 1998 出版社寄贈 27cm 人谷山歩会 1998 出版社寄贈 27cm 人のようとのようにようによった。 1998 出版社寄贈 27cm 人のようとのようにようにようにようにようにようにようにようにようにようにようにようにようによ	也田澄	山ある	記:大きさと厳しさ・美しさと優しさ	140pp/30cm	林野弘済会	1998	著者寄贈
PEF谷直 関西の山・日帰り縦走 注渡川水系の山(2)・長良川水系の山 264pp/20cm ナカニシヤ出版 1998 出版社寄贈 大垣山岳協会 (編) 美濃の山 (第2巻) :揖斐川水系の山(2)・長良川水系の山 264pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 大作茂 山伏と尊皇 16pp/19cm 平凡社 1991 出版社寄贈 平凡社 1991 出版社寄贈 日本地理大系 (第10巻) :北海道・樺太篇 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 1998 著者寄贈 1998 発行者寄贈 1994 233pp/21cm 1995 233pp/21cm 1996 233pp/21cm 1998 233pp/21cm 1998 233pp/21cm 1998 233pp/21cm 1998 243pp/19cm 143pp/19cm 143	串田孫一・他(編)	大山	」(日本の名山 No.19)	251pp/20cm	博品社	1998	出版社寄贈
大垣山岳協会 (編) 美濃の山 (第2巻):揖斐川水系の山(2)・長良川水系の山 264pp/20cm ナカニシヤ出版 1997 出版社寄贈 京都北山を歩く (第3巻):地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて 174pp/20cm カカニシヤ出版 1991 出版社寄贈 1941 富田健一氏寄 山木三生 (編) 日本地理大系 (第10巻):北海道・樺太篇 518pp/27cm 改造社 1930 富田健一氏寄 体 本薫雄 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 1994 持済山岳会 (編) 「科学的にとらえた中高年登山」シンポジウム (1998、11.28、明治大学) 44pp/30cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 1998 発行者寄贈 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 著者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 発行者寄贈 1998 表音寄贈 1998 発行者寄贈 1998 大族 直頭上山岳連盟 ひろしま百山 (登山ガイドブック) 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈 1998 大族 1998 105を1995 105を1995 105を1995 189pp/30cm 105を1995 1998 189pp/30cm 105を1995 1998 189pp/30cm 105を1995 1998 189pp/30cm 105を1995 1998 189pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 189pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 189pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 189pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 18pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 18pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 189pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 1998 18pp/30cm 18pp/30cm 18pp/3	串田孫一・他(編)	御嶽山	」(日本の名山 No.11)	252pp/20cm	博品社	1998	出版社寄贈
京都北山を歩く(第3巻):地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて 174pp/20cm ナカニシヤ出版 1991 出版社寄贈	中庄谷直	関西の)山・日帰り縦走	229pp/20cm	ナカニシヤ出版	1998	出版社寄贈
大伴茂 山伏と尊皇 1941 富田健一氏寄 山本三生(編) 日本地理大系(第10巻):北海道・樺太篇 518pp/27cm 改造社 1930 富田健一氏寄 大森薫雄 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 「AC科学委員会(編)「科学的にとらえた中高年登山」シンポジウム(1998.11.28.明治大学) 39pp/30cm JAC科学委員会 1998 発行者寄贈 中京山岳会(編) インド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰(6148m)初登頂 44pp/30cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 ななの会(編) インド・ヒマラヤ探訪:秘境キンノールの山々を訪ねて 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈 かろしま百山(登山ガイドブック) 233pp/21cm 中国新聞社 1998 著者寄贈 中弁人・沖道子 足利からの山旅 210pp/22cm 沖允・道子(私家版) 1998 著者寄贈 田孫一(著) 辻まこと(画) わたしの博物誌 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 わんん。(編) 山歩十年:入谷山歩会創立10周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 発行者寄贈 のんぱー山歩き隊(編) 山をおりてからのお楽しみ:東京近郊・里の味 182pp/19cm 山海堂 1998 出版社寄贈 世野紳一 中高年のための山の道具の選び方:失敗しない道具の買い方・使い方 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 世質調査所(編) わが国の火山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告 344pp/30cm 地質調査所 1998 森武昭氏寄贈 西といまの中域による時間による時間による時間による時間による時間による時間による時間による時間	大垣山岳協会(編)	美濃の	0山 (第2巻):揖斐川水系の山(2)・長良川水系の山	264pp/20cm	ナカニシヤ出版	1997	出版社寄贈
山本三生(編) 日本地理大系(第10巻):北海道・樺太篇 518pp/27cm 改造社 1930 富田健一氏寄 大森薫雄 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 FAC科学委員会(編)「科学的にとらえた中高年登山」シンポジウム(1998.11.28.明治大学) 39pp/30cm JAC科学委員会 1998 発行者寄贈 中京山岳会(編) インド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰(6148m)初登頂 44pp/30cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈 な高県山岳連盟 ひろしま百山(登山ガイドブック) 233pp/21cm 中国新聞社 1998 著者寄贈 中允人・沖道子 足利からの山旅 210pp/22cm 沖允人・道子(私家版)1998 著者寄贈 中中人人・(編) 山歩十年:入谷山歩会創立10周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 出版社寄贈 のんぱー山歩き隊(編)山をおりてからのお楽しみ:東京近郊・里の味 182pp/19cm 山海堂 1998 出版社寄贈 世野紳一 中高年のための山の道具の選び方:失敗しない道具の買い方・使い方 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 世質調査所(編) わが国の火山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告 203pp/24cm 地質調査所 1998 森武昭氏寄贈 田子におめている実態及び火山ガス事故の状況調査報告 203pp/24cm 地質調査所 1998 森武昭氏寄贈 地質調査所(編) たけ Journal of the Mountain Club of South Africa - 1996 (Nr.99) 203pp/24cm M.C. of South Africa 1998 発行者寄贈 地質調査所 1998 出版社寄贈	翠 潔	京都北	山を歩く(第3巻):地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて	174pp/20cm	ナカニシヤ出版	1991	出版社寄贈
大森薫雄 中高年のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス 243pp/19cm 東京書籍 1998 著者寄贈 1942	大伴茂	山伏と	尊皇	316pp/19cm	平凡社	1941	富田健一氏寄贈
AC科学委員会(編)「科学的にとらえた中高年登山」シンポジウム (1998.11.28. 明治大学) 39pp/30cm JAC科学委員会 1998 発行者寄贈 中京山岳会 (編) インド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)初登頂 中京山岳会 1998 発行者寄贈 なる島県山岳連盟 ひろしま百山 (登山ガイドブック) 233pp/21cm 中国新聞社 1998 著者寄贈 中允人・沖道子 足利からの山旅 210pp/22cm 沖允人・道子(私家版) 1998 著者寄贈 中允人・沖道子 足利からの山旅 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 かろしま百山 (登山ガイドブック) 210pp/22cm 沖允人・道子(私家版) 1998 著者寄贈 中五八一 (編) 山歩十年:入谷山歩会創立10周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 発行者寄贈 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 27cm みずず書房 1998 出版社寄贈 27cm みずず書房 1998 出版社寄贈 27cm カが国の大山が会創立70周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 山海堂 1998 出版社寄贈 1998 出版社寄贈 27cm 山海堂 1998 出版社寄贈 27cm 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 27cm 18pp/21cm 地質調査所 1998 森武昭氏寄贈 27cm 1998 1998 日本 27cm 1998 1998 日本 27cm 1998	山本三生(編)	日本地	迪理大系(第10巻):北海道・樺太篇	518pp/27cm	改造社	1930	富田健一氏寄贈
中京山岳会 (編) インド・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)初登頂 44pp/30cm 中京山岳会 1998 発行者寄贈なるの会 (編) インドヒマラヤ探訪: 秘境キンノールの山々を訪ねて 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈なる鳥県山岳連盟 ひろしま百山 (登山ガイドブック) 233pp/21cm 中国新聞社 1998 著者寄贈中允人・沖道子 足利からの山旅 210pp/22cm 沖允人・道子(私家版) 1998 著者寄贈中孫(帯) 辻まこと(画) わたしの博物誌 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈中人人 (編) 山歩十年: 入谷山歩会創立10周年記念誌(1988 - 1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 発行者寄贈のんぽー山歩き隊(編) 山をおりてからのお楽しみ:東京近郊・里の味 182pp/19cm 山海堂 1998 出版社寄贈中子のよりでは、中国年のための山の道具の選び方: 失敗しない道具の買い方・使い方 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈を書野紳一 中高年のための山の道具の選び方: 失敗しない道具の買い方・使い方 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈を書野紳一 カが国の火山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告 344pp/30cm 地質調査所 1998 森武昭氏寄記 1998 日本記録 1998 日本記述 1998 日本記録 1	大森薫雄	中高年	のための登山医学:山のドクターがアドヴァイス	243pp/19cm	東京書籍	1998	著者寄贈
おなの会(編) インドヒマラヤ探訪: 秘境キンノールの山々を訪ねて 233pp/21cm ぶなの会 1998 発行者寄贈 な島県山岳連盟 ひろしま百山(登山ガイドブック) 233pp/21cm 中国新聞社 1998 著者寄贈 中允人・沖道子 足利からの山旅 210pp/22cm 沖允人・道子(私家版)1998 著者寄贈 中木人・道子(私家版)1998 著者寄贈 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 42cm みすず書房 1998 出版社寄贈 42cm みすず書房 1998 出版社寄贈 42cm みすず書房 1998 出版社寄贈 42cm みずず書房 1998 出版社寄贈 42cm ル歩十年: 入谷山歩会創立10周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 発行者寄贈 42cm ル海堂 1998 出版社寄贈 42cm 地海堂 1998 出版社寄贈 42cm 地方では、1998 出版社寄贈 42cm 地方では、1998 出版社寄贈 42cm 地方では、1998 は版社寄贈 42cm 地質調査所(編) わが国の火山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告 34dpp/30cm 地質調査所 1998 森武昭氏寄 1998 根子音寄贈 42cm は 1998 は 15cm は	JAC科学委員会(編)	「科学的	にとらえた中高年登山」シンポジウム (1998.11.28. 明治大学)	39pp/30cm	JAC科学委員会	1998	発行者寄贈
大島県山岳連盟	中京山岳会(編)	インド	・ヒマラヤ、ラダック地方トゥジェ峰 (6148m)初登頂	44pp/30cm	中京山岳会	1998	発行者寄贈
中允人・沖道子 足利からの山旅 210pp/22cm 沖允人・道子(私家版) 1998 著者寄贈 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 1945 人名山歩会側立10周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 出版社寄贈 1998 日本ind Not and No	ぶなの会(編)	イント	ドレマラヤ探訪:秘境キンノールの山々を訪ねて	233pp/21cm	ぶなの会	1998	発行者寄贈
B田孫一(著) 辻まこと(画) わたしの博物誌 27cm みすず書房 1998 出版社寄贈 1945 出版社寄贈 1945 日本人一 (編) 山歩十年:入谷山歩会創立10周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 発行者寄贈 1998 出版社寄贈 1998 1804 1998 1998 1998 1804 1998 1998 1804 1998 1998 1998 1804 1998 1998 1804 1998 1998 1804 1998 1804 1998 1804 1998 1998 1804 1998 1998 1804 1998 1998 1804 1998 1998 1804 1998 1804 1998 1804	広島県山岳連盟	ひろし	ま百山(登山ガイドブック)	233pp/21cm	中国新聞社	1998	著者寄贈
中村久一(編) 山歩十年:入谷山歩会創立10周年記念誌(1988-1998) 189pp/30cm 入谷山歩会 1998 発行者寄贈 20んぼー山歩き隊(編) 山をおりてからのお楽しみ:東京近郊・里の味 182pp/19cm 山海堂 1998 出版社寄贈 189m 中高年のための山の道具の選び方:失敗しない道具の買い方・使い方 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 1998 1998 出版社寄贈 1998 1998 1998 1998 1998 1998 1998 199	中允人・沖道子	足利か	いらの山旅	210pp/22cm	沖允人・道子(私家版)	1998	著者寄贈
DAは『一山歩き隊(編) 山をおりてからのお楽しみ:東京近郊・里の味 182pp/19cm 山海堂 1998 出版社寄贈 185mm 中高年のための山の道具の選び方:失敗しない道具の買い方・使い方 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 1998 203pp/24cm 地質調査所 1998 本武昭氏寄 203pp/24cm M.C. of South Africa 1998 発行者寄贈 1998 Harish Kapadia Meeting the Mountain 1998 出版社寄贈 1998 地質調査所 1998 地質調査所 1998 1998 1998 1998 1998 1998 1998 199	串田孫一(著) 辻まこと(画	i)わたし	の博物誌	27cm	みすず書房	1998	出版社寄贈
古野紳一 中高年のための山の選具の選び方:失敗しない選具の買い方・使い方 189pp/21cm 山海堂 1998 出版社寄贈 出版社寄贈 出版社寄贈 出版社寄贈 出版社寄贈 出版社寄贈 出版社寄贈 出版社寄贈 出版社寄贈 日本記書	中村久一(編)	山歩十	年:入谷山歩会創立10周年記念誌(1988-1998)	189pp/30cm	入谷山歩会	1998	発行者寄贈
也質調査所(編) わが国の火山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告 344pp/30cm 地質調査所 1998 森武昭氏寄 3. Davies (ed.) The Journal of the Mountain Club of South Africa - 1996 (Nr.99) 203pp/24cm M.C. of South Africa 1998 発行者寄贈 Harish Kapadia Meeting the Mountain 398pp/23cm Indus Publishing 1998 出版社寄贈	のんぽー山歩き隊(編) 山をお	らりてからのお楽しみ:東京近郊・里の味	182pp/19cm	山海堂	1998	出版社寄贈
E. Davies (ed.) The Journal of the Mountain Club of South Africa - 1996 (Nr.99) 203pp/24cm M.C. of South Africa 1998 発行者寄贈 Harish Kapadia Meeting the Mountain 398pp/23cm Indus Publishing 1998 出版社寄贈	吉野紳一	中高年	のための山の道具の選び方:失敗しない道具の買い方・使い方	189pp/21cm	山海堂	1998	出版社寄贈
Harish Kapadia Meeting the Mountain 398pp/23cm Indus Publishing 1998 出版社寄贈	地質調査所(編)	わが国	の火山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告	344pp/30cm	地質調査所	1998	森武昭氏寄
가는 마르크 아이들 아이들 사람들이 되었다면 보다 하는데 그렇게 되었다면 보다 하는데 그렇게 되었다면 보다 하는데 그렇게 되었다면 보다	E. Davies (ed.)	The Jou	ırnal of the Mountain Club of South Africa - 1996 (Nr.99)	203pp/24cm	M.C. of South Africa	1998	発行者寄贈
Walter Bonatti Montagne di Una Vita 335pp/25cm Baldini & Castoldi 1996 著者寄贈	Harish Kapadia	Meeti	ng the Mountain	398pp/23cm	Indus Publishing	1998	出版社寄贈
	Walter Bonatti	Mont	agne di Una Vita	335pp/25cm	Baldini & Castoldi	1996	著者寄贈

十一月理事会

竹内各副会長、吉永、田邊、伊丹、 [出席者] 斎藤会長、小倉、大森、 十一月十一日外 日本山岳会会議室 分~二十一時

三枝礼子「ネパール語辞典」の編著

薬師義美「新版ヒマラヤ文献目録」

熊崎、絹川、勝山、村井、飯田、鰺

平野、中村各常任評議員 尾常任評議員 [委任] 增山、森、坂本各理事、

神崎各監事、平山、穴田、中川、 大蔵、宇田川、宮崎各理事、石

するお礼の挨拶を述べた。 七日全員無事帰国の報告と支援に対 マラヤ登山隊一九九八、蛭田隊長が ○議事に先立ち、学生部ブータンヒ

【審議事項】

での十六名に対し、晩餐会席上で永 会の会員番号三三五二・西納久之ま 七三五・百瀬孝より四八年十二月入 員番四一四八) 精雄(会員番号三〇四三)、相川修 二、永年会員 (会員番号三九〇〇)、大井正 一、名誉会員推薦 十月十七日の評議員会議で、 一九四八年一月入会の会員番号二 の三名を推薦。了承 絹川

③ネパール・トレッキング参加者は

も請求があれば発行。

者などを招待してパーティーを開催、

一十六日NMA・ネパール政府関係

一十八日帰国

撮影、放送の許可願いが出された。

般客百二十名。十一月二十日出発、

JAC関係者百二十四名、旅行社

①㈱日本テレビ放送網編成局より、

七、許可願い三件

年会員証の授与を行う。 について全員一致で承認した。 のと認め会長に推薦。それに基づき、 業績について、運営委員会でも検討 斎藤会長より発議のあった左記業績 の結果、第一回受賞にふさわしいも 審査委員長より推薦報告を受けた「 三、秩父宮記念山岳賞 竹内副会長 十一月六日、審査委員会・小田稔

添付資料 訳書の刊行 の作成とヒマラヤ関係の著書・翻

1、応募業績一

2、審査委員会 委員長の推薦理

四、ポカラ山岳博物館募金 のとして、反省検討会を開催する。 上の募金者に対して行う。一万円で ②免税手続きは、四口(二万円) 四千五百七十一円。 ①十月三十日現在、八百九十二名、 *十二月十七日、第二回につなぐも 一千五百三十八口、千二百四十七万 以

> 関連六団体募金委員会で検討の上、 認などにより見通しが得られたため、 り現地ネパール政府の支援、NMA ④募金持参については、十月中旬よ C2を設置してルート探索、十一月 ①十月十三日偵察隊出発、ラサ経由 金を贈呈する。 日本側としてパーティーの席上で基 の組織、本会宮原会員による現地確 および国内有力者による基金委員会 五、ガンカープンスム峰偵察 -最終集落より馬でBC入り。C1、

実行委員会を組織する。 ②一九九九年本隊登山に向け、 海外担当副会長を委員長として登山 十七日帰国予定。

報告会を開催する。 ので、資料委員会で対応する。承認 岳館、大町山岳博物館の同意を得た の申請がなされた。松本アルプス山 族より本会所蔵資料の寄託変更展示 三月完成。オープンに合わせてご遺 武田久吉メモリアルホールが十一年 ③十一月三十日、本会ルームで偵察 六、寄託先変更の件 現在、南会津檜枝岐村に建設中の

> ②㈱NHKプロモーション展博事業 美術館、十一年五月二十二日~三十 然を 岩橋崇至 写真展」(新宿三越 が出された。 本部より「日本の自然を・地球の自 日)開催のため後援の名義使用願

場のパネル資料展示に『山岳』掲載 ③北海道支部長より、平成十一年七 ①十月三十日現在、会費納入は八八 出された。 の写真・年譜の一部引用許可願いが ・二パーセント。 八、財務状況·監査 会を札幌市で開催するに当たり、会 月二十日支部創立三十周年記念祝賀

状を発送予定。 議でもお願いした。 ②未納約七百名については支部長会 十二月中に督促

る (石橋監事)。 が出席する。 立六十周年記念祝賀会には伊丹理事 九、十一月二十九日の昭和山岳会創 管は正確になされており適正と認め したが、経理は支出、記帳、 *監査は、仮払いについて二点指摘 ③支出は上半期分四二パーセント。 伝票保

【報告事項】

恒さん紹介のため、本会ビル外観の 島ちょっと昔の旅」で本会会員黒石 十一月九日放映のTV番組「日本列 ②山研利用明細については十二月理 ①自然エネルギー展の延長として小 山研委員会・小倉副会長 できるよう正式手続きをとる。 型水力発電計画は来年四月から着工

(20)

十月二十二日小委員会開催、財務図書管理小委員会・小倉副会長事会に提出する。

海外委員会・熊崎

って有識者の意見も聞き方針を出す。委員会の山本健一郎委員が中心とな

②京大チョゴリザ四十周年出席のア出席。出席。

①ブータンヒマラヤ登山隊一九九八学生部・宮崎十一月十日本会を訪問。

②十一月八日学生部マラソン大会開員無事帰国。

は目標のタリガン峰へは頂上直下二

〇〇メートルで断念、十一月七日全

で開催。

③十一月十四~十五日、大学山岳部

③十一月十四~十五日、大学山岳部

唯。参加十五チーム、六十五名。

自然保護委員会・大蔵

提出とする。
是出とする。
是出とする。

テーマ「高所順化と酸素の使用」医療委員会公開研究会・宇田川

○○○メートルが教えるもの」堀井昌子「シルバータートルのハ

酸素補給の問題点」
谷川太郎「無酸素登山と睡眠時の

場所 本会集会室 十八時三十分

総務委員会・絹川

①十二月五日年次晩餐会「新高輪プ

支部長会議=紅玉の間・十二時

時、開宴十八時年次晩餐会=北辰の間・受付十六

演会=白雲の間・十五時秩父宮記念山岳賞の発表、記念講海外登山報告=白雲の間・十四時

一月下旬より勤務。 引き継ぎとパソコンの慣習のため十一名の定年、後任職員は経理部門の一名の定年、後任職員は経理部門の

大森副会長が出席。

集会委員会・勝山

日二岐山へ。
日二岐山へ。
日二岐山へ。

十七日、八方尾根にて。 ③スキー懇親会=十一年一月十五~日、三重県御在所岳山行。

④委員募集=来期以降の委員募集を

10 日

アルパインスケッチクラブ

「山」に掲載。

■会員異動

世界孝治(二六八六)10・7・9 世原孝治(二六八六)10・8・16 小山智(四三〇三)10・8・16 平松和男(六四五九)10・10・7 中尾正(八二七九)10・11・1 ・15 根津院一(一〇九七〇)10・11・15 根津院一(一〇九七〇)10・11・15 根津院一(一〇九七〇)10・11・15 日本 (一〇九七〇)10・11・15

惠爪竹一郎(一二三一

河田豊吉(三〇二六)10・11・30橋爪竹一郎(二二三一八)10・11・30 30

ル ー ム 日 誌

10 月

2日 自然保護委員会 会報編集委

4日 自然保護委員会

5

日 常務理事会 山の自然学研究

9日 総務委員会 山げらの会 7日 98年上期新入会員オリエン テーション

11日 理事会 アルパインスケッチ海外連絡委員会 95同期会

3日 青年部 2日 緑爽会 学生部 集会委員会

16日 総務委員会 資料委員会 図

会 19日 科学委員会 アルパインスキ 19日 科学委員会 アルパインスキ

24日 高所登山研究委員会 秩父宮21日 医療委員会 山岳編集委員会

27日 青年部 自然保護委員会 百年史委員会 データバンク研究会

30日 ガンカープンスム報告会 総

計報

正毎日新聞写真記者・依田孝喜氏 が、十二月三日、肺炎のため逝去さ が、十二月三日、肺炎のため逝去さ が、十二月三日、肺炎のため逝去さ が、十二月三日、肺炎のため逝去さ が、十二月三日、肺炎のため逝去さ が、十二月三日、肺炎のため逝去さ

④ジョウゴ沢他本番ルートでの実践

③アイスクライミングにおける懸垂

INFORMATION

アイスクライミング研修会 指導委員会·青年部·学生部

*テント泊

一万円(食事は自炊)

験者に限ります。 い研修会です。参加資格は岩登り経 ストらを講師に迎えて行う、質の高 ドや若手トップクラスのヒマラヤニ 本会会員の中から一流の山岳ガイ 遭難対策委員会共催

月一日川 *中途参加も可 八ヶ岳横岳西面ジョウゴ沢他 一九九九年一月三十日出~

氷瀑群(赤岳鉱泉ベース)

②ダブルアックスクライミングを中 ①アイスクライミングにおけるプロ 心としたアイゼンとアイスアック スのコンビネーションクライミン テクションシステムの構築 場所

問合せ 石田要久

講師 ⑤冬山における遭難救助技術 参加費用 二万七千円(小屋泊 山本一夫(指導委員会委員) 熊崎和宏 溝渕三郎 松原尚之(指導委員会委員 室宿泊費、食費等含む) 靖(指導委員会委員) (指導委員会理事 (JECC会員)

の文化と自然環境について考えます。

三月十三日出~十四日回 山梨県南都留郡忍野村「ふれ

あいホール」&「富士学園 一万円(一泊二食弁当付)

「富士山憲章」制定を機に、富士山

を歩こう!

自然保護委員会

№・○四二二一三七一三八八二 〒一八〇-〇〇一 武蔵野市吉祥 問合せ 熊崎和宏(ハガキかFAX) *学割あり 「数置地図について」講演会 寺北町三-五-二四-三〇二

科学委員会

日時 ことや制作方法、また利用方法など をやさしく話していただきます。 置地図とはどんなものか、基礎的な 数置地図が話題となっています。数 情報通信システムの発展とともに 二月二十四日份 十八時三十分~二十時

博氏(筑波大学付属高 校教諭)

日本山岳会集会室

昇氏 (日本地図センタ 地図研究所)

◆早春の忍野で富士山を語り、山麓 (嵐·〇三〇-二二六-二八四八)

場所

環境パートナーシップオフィ

二月六日

十一時~副題

十三~十七時本題

別委員 家)·鞠子茂(山梨県環境科学研 シンポジウム=内藤成雄(富士こ 音楽及び演劇=劇団芸協他 会会員)・平野紀子(自然保護特 究所所員)・渡邊玉枝 (日本山岳 ぶしの会会長)・中川雄三 (写真

第一日「富士山憲章」制定記念集会

第二日 登山・ハリモミ林視察他 午後はアルパインスケッチ有志展 オープニングパーティー ハガキで日本山岳会自然保護 委員会忍野シンポ係へ

*申込者には詳細を送付します。 「山の自然学現地講座」ご案内 山の自然学研究会

表記の講座はすでに百回を超え、

第百十三回 さい。申し込みは当日でも結構です。 しく集まり、講座の有益な話から多 会員内外より毎回約五十名の方が楽 くを学んでいます。ぜひご参加くだ

> ネパ--ル国際山岳博物館募金応

表記の募金にご協力くださった方々のご芳名を掲載し、 お礼に替えさせていただきます。(敬称略) 220,000円 (12月10日現在) 累計914名 2,549 🗆 12,764,517円

- 20口 (100,000円) 千葉大学学士山岳会
- 2口 (10,000円) 後藤邦慶 石塚克美 鈴木常夫

市倉金藏 神谷博行 平井喜久枝 船橋山百合の会 池元善秋 北海道山岳連盟

1口(5,000円) 高橋重之 田上敏行 篠崎純 大島洋子

き誠にありがとうございます。

当初、免税の取り扱い方につきま

つきましては多大なご協力をいただ

ポカラ国際山岳博物館建設募金に

と折衝いたしておりましたが、この しては検討、考慮中で、関係諸団体

税措置を受けられることになりまし たび財団法人日本体育協会扱いの免

ターでB2へ) 歩道を右折、 青山通国連大学手前のタイル ス会議場(地下鉄表参道下車 正面エスカレー

小野有五(会員)

テーマ「自然保護への人のあり方

と実践の体験」(仮題)

場所 三月二十日 十一時~副題 環境パートナーシップオフィ 十四~十七時本題

費用

テーマ 「山の自然学をさらに発展 小泉武栄(会員) させると」(仮題)

◆大雪山黒岳スキー技術研究会

定しています。 る基礎スキーの実技と黒岳登山を予 層雲峡温泉に一泊し、 指導員によ 北海道支部

〒00三-0八三三 札幌市

液型、緊急連絡先を明記し、

白石区北郷三条四-一-一二

名、電話番号、生年月日、

ſШ

集合・宿泊 層雲峡プリンスホテル 日時 三月十三日出~十四日旬 テーマ カービングスキー技術 朝陽亭(置・〇一六五八-五 -|三|四|)

募集人数 先着三十名 親会、講師料を含む) エー、リフト、傷害保険、 一万七千円(宿泊、ロープウ

申込 ハガキに会員番号、住所、氏

に適用されます。募金委員会事務局 た。二万円以上ご寄付いただいた方 で手続きさせていただきます。

ポカラ国際山岳博物館建設

第金免税措置取り扱いに関して

募金委員会事務局

ご連絡いただければ幸いです。 万は、早急に日本山岳会事務局まで なお、免税措置手続きの必要ない

をされていて、当募金との合計金額 を必要とされる方は、二万円以下へ一 が二万円以上になり、免税取り扱い 金以外のところで免税取り扱い寄付 万円以上)の寄付金でもお申し出く また、ポカラ国際山岳博物館寄付

たことをお詫び申し上げます。 今回の免税措置へのご連絡が遅れ

> 締切 問合せ 二月十三日 二月末まで事前振込みです。 と郵便振替用紙を送付します。 -七八四一〇七八九) 中村喜吉(置&風・〇一一 集合·宿泊資料

交通・宿泊の相談 りんゆう観光 ◆自宅でできるトレーニング講座 11・01-七1-七10六

ングのエクササイズを毎月一回行っ さようなら!」をテーマに、ストレ ています。ぜひご参加ください。 ッチと道具を使わない筋肉トレーニ 「楽に山に登りましょう、筋肉痛よ 二月二十四日份 一月二十七日份 山げらの会

問合せ 日本山岳会集会室 毎回十八時三十分~二十時 Ⅲ・○三一三四五一一五三

意ください。 *参加自由。軽装、各自敷物をご用

八八 三井まで

ロスカントリースキーの講習会を開 **◆**クロスカントリー・セミナー 昨年に続き、今年も妙高高原でク 山げらの会

> きます。初心者の方もぜひどうぞ。 平成十一年三月十九~二十一 (二)泊三日

新潟県中頸城郡妙高高原池ノ

池廼家(いけのや)

費用 二万円(宿泊、コーチ料込み、 横山久雄氏(オリンピック選 交通費別 手などの育成者)

申込 二月末日までに (先着順) 早川瑠璃子まで 〇三一三三〇七一一九九一

E-MAIL: VEU00155@nifty.ne.jp *参加者には詳細を連絡します。 黒木史子まで

期日 三月二十日出~二十五日休 ▼後藤三男油絵·水彩展 ポルトガル紀行― 安曇野の四季とスペイン・ 朝日アートギャラリー

証・〇三-三五六七-一六七一) (中央区銀座四—一〇

〒102−0081 東京都千代田区四番町5-4 東京 (03)3261 東京 (03)3261

村井 葵 株式会社 双陽社

山 日本山岳会会報

1999年(平成11年) 1月20日発行 発行所 社団法人日本山岳会